YAMAHA



F2B

# 船外機取扱説明書

⚠ 船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。

6EF-F8199-06

**船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。航海する時は、本書を防水バッグなどに入れて、お客様のボートの適切な場所に保管してください。船外機を売却される場合は、本書を添付してください。**

JMU30127

## お客様へ

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。
この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。
**本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。**

⚠ 安全に係わる注意情報を意味しています。

JWM00782

**⚠警 告**

**取り扱いを誤った場合、死亡または重傷及び傷害に至る可能性がある場合を示しています。**

JCM00702

***注 意***

**取り扱いを誤った場合、船外機または他の物的損害に至る可能性がある場合を示しています。**

**要 点：**

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

**取扱説明書と保証書について**

仕様の変更などにより、取扱説明書の図や内容と実機が一部異なる場合があります。ご了承ください。

取扱説明書は大切に保管し、船外機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

**製品を長くご愛顧頂く為に**

この取扱い説明書に従った製品の正しい取扱いや、指定の定期点検／保守を行っていただくことを推奨致します。上記の注意事項に従わずに何らかの損害が発生した場合、保証の対象外になりますのでご注意ください。

**製品を国外へ持ち出しのお客様へ**

国によっては法令／規制の関係で持ち出す事が出来なかったり、登録出来なかったりする可能性があります。また、保証が一部地域で適用されない場合もございます。もしお客様が製品を国外へ持ち出して使う場合は、詳細を購入販売店に相談してください。

**製品の個人転売を受けたお客様へ**

お客様再登録のため最寄の販売店にご相談していただき、所定のサービスを受けられる様にしてください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

**要 点：**

本書では内容や図はF2BMHを基本に標準的な装備品を想定して説明しております。モデルや仕様によっては適合しない項目もあります。

# 目次


**安全にご使用するにあたって.....1**
安全にお使いいただくために ..... 1
プロペラ ..... 1
回転部品 ..... 1
高温部品 ..... 1
感電の危険性 ..... 1
エンジンシャットオフコード（ランヤード） ..... 1
ガソリン ..... 2
ガソリンの蒸発と流出の注意 ..... 2
一酸化炭素 ..... 2
改造 ..... 2
ボート運転安全性 ..... 2
飲酒と薬の服用について ..... 2
ライフジャケット ..... 2
遊泳者への注意 ..... 2
乗船者 ..... 2
過積載 ..... 3
衝突を回避する ..... 3
水中の障害物および浮遊物への注意 ..... 3
天候 ..... 3
乗船者の訓練 ..... 4
ボート航行の安全に関する告知 ..... 4
法令および規制 ..... 4

**お使いいただく前に.....5**
製造番号の記録 ..... 5
船外機製造番号 ..... 5
マニュアル類と製品安全ラベルをお読みください ..... 6
警告ラベル ..... 6

**基本事項と仕様諸元.....9**
仕様諸元 ..... 9
ボートへの設置条件 ..... 10
ボートの定格馬力 ..... 10
船外機の取り付け ..... 10
プロペラ ..... 10
エンジンオイルに関する項目 ..... 11
ギヤオイル ..... 11
燃料に関する項目 ..... 12
ガソリン ..... 12
船底の清掃 ..... 12
船外機の廃棄に関する項目 ..... 12
非常時の装備 ..... 12

**構成部品.....13**
各部の名称 ..... 13
燃料タンク（一体型燃料タンク） ..... 14
燃料コック ..... 15
ティラーハンドル ..... 15
ギヤシフトレバー ..... 15
スロットルコントロールグリップ ..... 16
スロットルインジケーター ..... 16
スロットルフリクションアジャスター ..... 16
緊急エンジン停止スイッチ ..... 17
エンジン停止ボタン ..... 17
チョークノブ（プルタイプ） ..... 17
マニュアルスターターハンドル ..... 18
ステアリングフリクションアジャスター ..... 18
チルトピン ..... 18
チルトロック機構 ..... 19
チルトサポートレバー ..... 19
カウルロックレバー ..... 19
キャリングハンドル ..... 19

**船外機の取り付け .....20**
船外機の取り付け ..... 20
ボートトランサムへの取り付け ..... 20
船外機の取り付け ..... 22

**運転と操作 .....23**
初めてお使いになる前に ..... 23
エンジンオイルの補給 ..... 23
慣らし運転 ..... 23
ボートをよく知ろう ..... 23
始動前点検 ..... 24
燃料残量 ..... 24
トップカウルの取り外し ..... 24
燃料系統 ..... 25
コントロールシステムの点検 ..... 25
エンジンシャットオフコード（ランヤード） ..... 25
エンジンオイル ..... 25

# 目次


船外機本体 ..... 26
トップカウルの取り付け ..... 26
燃料タンクへの給油 ..... 27
エンジン操作 ..... 28
燃料供給 ..... 28
エンジン始動 ..... 29
エンジン始動後の点検 ..... 31
冷却水 ..... 31
暖機運転 ..... 31
暖機運転方法 ..... 31
暖機運転後の点検 ..... 31
シフト操作 ..... 31
エンジン停止スイッチ ..... 31
前進／後進 ..... 31
停船 ..... 33
エンジン停止 ..... 33
エンジン停止手順 ..... 33
船外機トリム角度 ..... 34
トリム角度の調整 ..... 34
トリム角度の設定とボートの取り扱い ..... 35
チルトアップ／ダウン ..... 36
チルトアップ ..... 36
チルトダウン ..... 38
他の航走状況 ..... 38

**点検と整備 ..... 39**
運搬と保管 ..... 39
船外機の取り外しと運搬 ..... 39
長期保管 ..... 42
保管手順 ..... 42
潤滑 ..... 43
船外機の洗浄 ..... 44
船外機外装の点検 ..... 44
定期点検 ..... 44
シビアコンディション ..... 44
定期点検表 1 ..... 46
定期点検表 2 ..... 47
グリス給脂箇所 ..... 48
スパークプラグの点検 ..... 49
燃料フィルターの点検 ..... 50
アイドル回転数の点検 ..... 50
エンジンオイルの交換 ..... 50
ワイヤーリードと各接続部の点検 ... 52
プロペラの点検 ..... 53
プロペラの取り外し ..... 53
プロペラの取り付け ..... 54
ギヤオイルの交換 ..... 54
アノードの点検（外部取り付け） ..... 55
付属工具と部品 ..... 56

**不具合時の対応 ..... 57**
故障と対策 ..... 57
応急処置 ..... 59
衝撃を受けた場合 ..... 59
始動装置が作動しない場合 ..... 59
応急始動 ..... 59
船外機を水中に落とした場合 ..... 62

**附録 ..... 63**
メンテナンスに関する各種サポート情報 ..... 63
お客様窓口のご案内 ..... 64

**索引 ..... 65**

# ⚠安全にご使用するにあたって

JMU33623

## 安全にお使いいただくために

船外機特有の安全に係わる特性を、以下に記述します。危害を避けるために、指示された内容を守ってください。

JMU36502

### プロペラ

プロペラに接触すると、負傷または死亡する恐れがあります。船外機のシフトが中立（ニュートラル）の時でもプロペラは回転を続ける可能性があります。またプロペラが止まっている状態でも、鋭利な縁で身体を切る恐れがあります。

- ボート付近に遊泳者がいるときは、直ちにエンジンを停止してください。
- エンジンが停止している時でも、プロペラの回転範囲内に近づかないようにしてください。

JMU40272

### 回転部品

手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどが、エンジン内部の回転部品に挟まれたり、あるいは巻き込まれて負傷したり死亡する危険があります。

トップカウルは、可能な限り取り付けておいてください。エンジンを運転させたままトップカウルを外したり、交換したりしないでください。

トップカウルを外してエンジンを始動するときは、本書に示された手順に従ってください。トップカウルを外したときは、手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどを可動部品に近づけないでください。

JMU33641

### 高温部品

エンジン運転中および停止直後は、エンジンの各部品の表面は高温状態で、火傷の恐れがあります。エンジンが冷えるまでは、トップカウル内の各部品に手を触れないでください。

JMU33651

### 感電の危険性

運転中は、電装品には触らないでください。感電したり、感電死する恐れがあります。

JMU33672

### エンジンシャットオフコード（ランヤード）

エンジンシャットオフコードは、操船者が誤ってボートから水中に落ちた場合や、運転席から離れた場合に、エンジンを停止できるよう衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。こうすることにより、ボートが無人で航行することを防止し、また遊泳者や障害物に衝突することを防止できます。

エンジン運転中は、エンジンシャットオフコードを常に衣服の安全な部分、腕、または足に付けてください。ボートの航行中は、運転席から離れるためにエンジンシャットオフコードを外さないでください。エンジンシャットオフコードが正しく機能するように、エンジンシャットオフコードを衣服の外れやすい部分に付けたり、絡まないようにしてください。

エンジンシャットオフコードは誤って引っ張られないようにしてください。エンジン運転中にエンジンシャットオフコードを引くと、エンジンが急停止し操船出来なくなります。また、ボートの速度が急減速し、乗船者や物が船外に投げ出される恐れがあります。

JMU33811
### ガソリン
**ガソリンは引火性です。**火災や爆発の危険を避けるために、給油は28ページの手順に従ってください。

JMU33821
### ガソリンの蒸発と流出の注意
ガソリンをこぼさないように、取り扱いには十分に注意して行なってください。万一ガソリンがこぼれた場合は、乾いた布ですぐに拭き取ってください。ガソリンを拭いた布は、正しい方法で廃棄してください。
ガソリンがこぼれて皮膚についた場合は、ただちに石けんと水で洗い流してください。ガソリンが衣服に付着した場合は、着替え等を行ってください。
誤ってガソリンを飲み込んだ場合、気化したガソリンを大量に吸い込んだ場合、またはガソリンが目に入った場合は、ただちに医師の診断を受けてください。決して、ホースの端を口にくわえてガソリンを吸い上げたりしないでください。

JMU33901
### 一酸化炭素
排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。

JMU33781
### 改造
船外機は改造しないでください。船外機を改造すると安全性や信頼性が低下し、危険なだけでなく法律違反となります。

JMU33742
## ボート運転安全性
この項では、航行時に守らなければならない安全上の大切な注意事項が示されています。

JMU33711
### 飲酒と薬の服用について
飲酒または薬を服用した後は、ボートを操船しないでください。ボートの死亡事故のもっとも一般的な原因の一つが、酔った状態での操船によるものです。

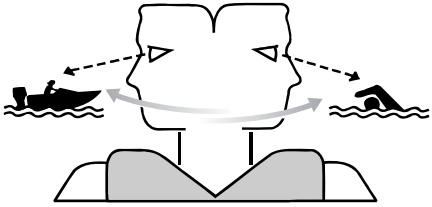
JMU40281
### ライフジャケット
認定されたライフジャケットを定員分、ボートに備えてください。乗船者はボートの用途に合った日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣（ライフジャケット）を必ず着用してください。

JMU33732
### 遊泳者への注意
航行中は、スキーヤー、ダイバーなどの遊泳者に注意してください。ボート付近に遊泳者がいる時は、シフトを中立（ニュートラル）にして、エンジンを停止してください。
遊泳者は見えにくいので海水浴場には近づかないでください。
プロペラはシフトが中立（ニュートラル）の位置でも回転します。付近に遊泳者がいる時は、エンジンを停止してください。

JMU33752
### 乗船者
ボート上の正しい乗船席をボートメーカーに確認し、アイドル回転数以上の速さで運転する場合は、乗員が正しい位置に座っている事を確認してください。立っていたり指定された場所以外に座っていると、波や航跡で、またはスピードや進路が急に変った場合に、船の内外に投げ出される可能性があります。乗員が指定の安全な場所に座っている場合でも、通常では行わないような運転をする場合は乗員に警告してください。波や航跡をジャンプする事は常に避けてください。

JMU33763
### 過積載
船体の最大積載量が超過しないようにしてください。船体の最大積載量や定員に関しては、船体に取付けられた銘板を参照するか、船体製造メーカーにご照会ください。船体製造メーカーの指示内容に従い、重量を正しく分散するようにしてください。過積載または重量の偏りがあると、ボートの操船が難しくなり、事故、転覆、浸水の原因になります。

JMU33773
### 衝突を回避する
遊泳者、障害物、そして他のボートに常に注意を払ってください。視界が制限されたり妨げられる状況に警戒してください。

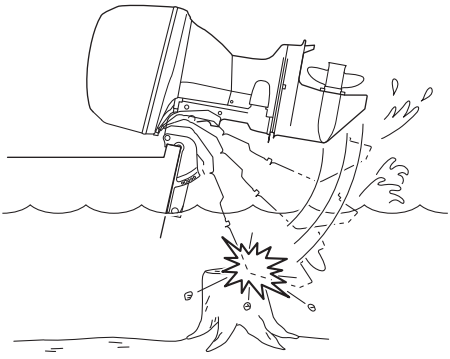


ZMU06025

遊泳者、障害物、他のボートから十分に安全な距離を保ち、回避できる安全な速度や距離を保って航行してください。
- 他のボートや水上スキーをしている人の背後を追走しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予想困難な航行は行わないでください。
- 水中物体のある水域や浅水域の航行は避けてください。
- 制御不能、衝突や、海に投げ出されたりするリスクを小さくするため、ご自身の能力の範囲内で運転し、無謀な操縦は避けてください。
- 衝突を避けるために、早めの対処をしてください。ボートにはブレーキがなく、またエンジンを停止したりスロットルを戻したりすると、操舵力が低下することを忘れないでください。障害物に衝突する前に停止するかどうか確信が持てない場合は、スロットルを入れて別方向に進んでください。

JMU48140
### 水中の障害物および浮遊物への注意
航走中に浮遊物や、水中の障害物に接触した場合、次の状況が想定されます。
- 急減速により、同乗者や荷物が前方に投げ出される恐れがあります。
- 衝撃により船外機の部品が外れ、船内に飛んでくる恐れがあります。
- 衝撃により、ボートまたは船外機が損傷する恐れがあります。

もし浮遊物や水中の障害物に接触した場合は、船体および船外機に異常が無いことを確認します。異常があった場合は低速で最寄の港へ引き返してください。帰港後はヤマハ販売店の点検を受けてください。



JMU33791
### 天候
常に最新の天候を知るようにしてください。出航する前に天気予報を確認してください。荒天時には決して出航しないでください。

JMU33881
### 乗船者の訓練
少なくとも 1 人の乗船者が、緊急時にボートを操舵する訓練を受けていることを確認してください。

JMU33891
### ボート航行の安全に関する告知
ボート航行の安全に関する情報を常に入手してください。詳しい発表内容や情報は、ボート航行の安全のための多くの組織から入手できます。

JMU33602
### 法令および規制
ボートで航行する場合は、航行するに関する法律および規則を理解し、それに従ってください。地域によっては一部の規則が優先されますが、基本的にはすべて International Rules of the Road( 国際海上航行規則 ) と同じです。

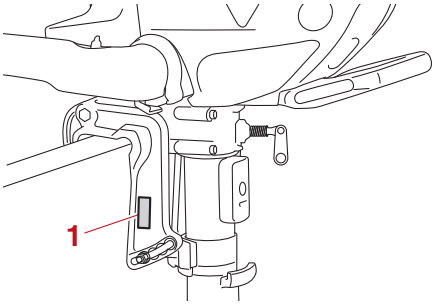
JMU25172

## 製造番号の記録

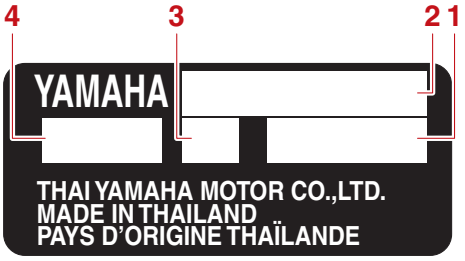
JMU25186

### 船外機製造番号

製造番号は、クランプブラケットの左舷側に貼ってあります。
ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に番号を控えておくと便利です。




1. 船外機製造番号貼付場所




1. 製造番号
2. モデル名
3. トランサム高さ
4. エンジン型式

JMU33524

## マニュアル類と製品安全ラベルをお読みください

船外機をご使用または整備を始める前に：

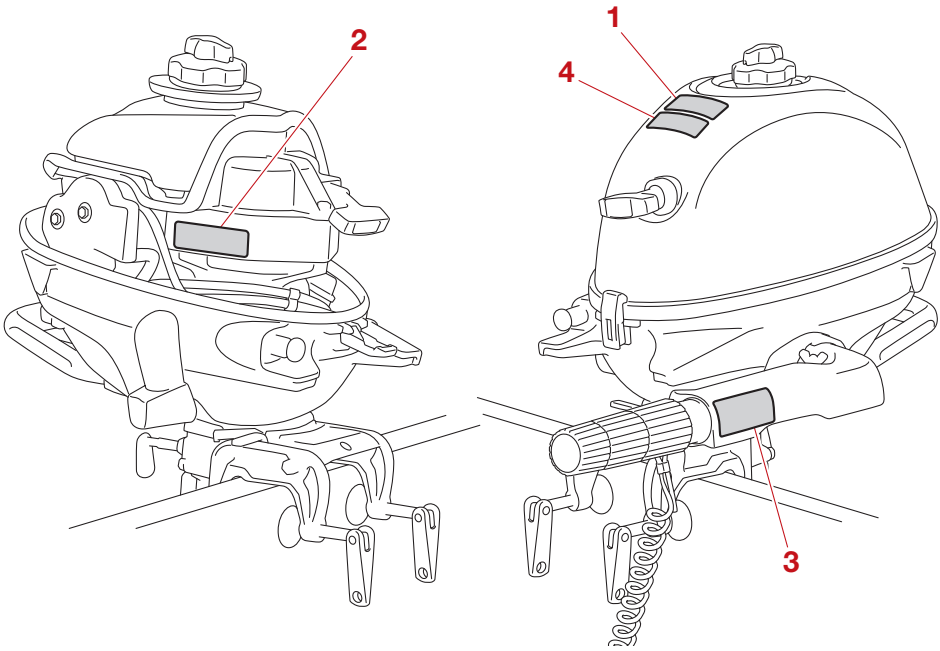
- 本書をお読みください。
- お客様のボートに備えられているマニュアル類はすべてをお読みください。
- 船外機とボートのすべてのラベルをお読みください。

ご不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。

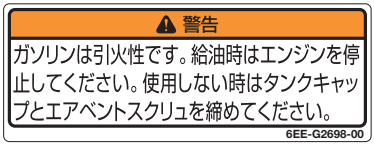
JMU33836

### 警告ラベル

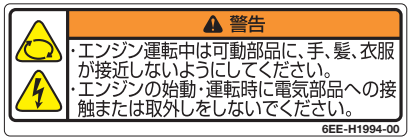
警告ラベルが損傷または紛失している場合は、ヤマハ取扱店で交換してください。



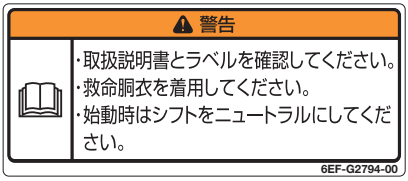
1



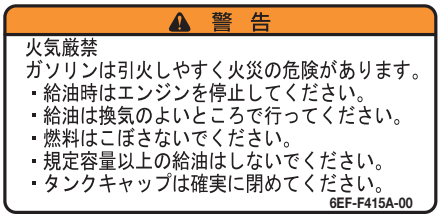

2




3




4




JMU44570

## ラベルについて

上記のラベルに記載されている内容は、以下のようになります。

**1**

JWM02731

**⚠警 告**

**ガソリンは引火性です。給油時はエンジンを停止してください。使用しない時はタンクキャップとエアベントスクリュを締めてください。**

**2**

JWM01682

**⚠警 告**

- **エンジン運転中は可動部品に、手、髪、衣服が接近しないようにしてください。**
- **エンジンの始動・運転時に電気部品への接触または取外しをしないでください。**

**3**

JWM01712

**⚠警 告**

- **取扱説明書とラベルを確認してください。**
- **救命胴衣を着用してください。**
- **始動時はシフトをニュートラルにしてください。**

**4**

JWM04060

**⚠警 告**

**火気厳禁**

**ガソリンは引火しやすく火災の危険があります。**

- **給油時はエンジンを停止してください。**
- **給油は換気のよいところで行ってください。**
- **燃料はこぼさないでください。**
- **規定容量以上の給油はしないでください。**
- **タンクキャップは確実に閉めてください。**

JMU35133

**シンボル**

以下のシンボルは次のような意味を示します。

注意／警告



ZMU05696

マニュアル熟読



ZMU05664

回転物注意



ZMU05665

感電注意



ZMU05666

JMU38092

## 仕様諸元

**要　点：**

下記の仕様諸元内の “( アルミ )” は、アルミプロペラ装着時の数値を示します。

JMU3061J

**寸法、重量**：

全長：
625 mm
全幅：
363 mm
全高　S：
1028 mm
全高　L：
1155 mm
船外機トランサム高さ　S：
433 mm
船外機トランサム高さ　L：
560 mm
乾燥重量　( アルミ )　S：
17 kg
乾燥重量　( アルミ )　L：
18 kg

**性能**：

全開回転域：
4500–5500 r/min
定格出力：
1.5 kW
アイドル回転数：
1800–2000 r/min

**パワーユニット**：

形式：
４ストローク　ＯＨＶ　単気筒　２バルブ
総排気量：
72 $cm^3$
ボア × ストローク：
54.0 × 31.5 mm
点火方式：
ＴＣＩ
スパークプラグ　(ＮＧＫ):
CR6HSB
ギャップ：
0.6–0.7 mm
操舵方式：
ティラハンドル
始動方式：
マニュアルスタータ
始動系：
チョークバルブ
クリアランス（吸気）( 冷機時 ):
0.08–0.12 mm
クリアランス（排気）( 冷機時 ):
0.08–0.12 mm

**ロワーユニット**：

ギアシフト位置：
Ｆ-Ｎ
減速比（ギア比）：
2.08 (27/13)
トリム / チルト方式：
マニュアルチルト
プロペラマーク：
BS

**燃料、オイル要件**：

推奨燃料：
無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量（一体型燃料タンク）：
0.9 L
推奨エンジンオイル：
ヤマルーブ　４ストローク　マリンエンジンオイル
推奨エンジンオイルグレード１：
SAE 10W-30/10W-40/5W-30
API SE/SF/SG/SH/SJ/SL
エンジンオイル容量：
0.25 L

潤滑方式：
　飛沫潤滑
推奨ギヤオイル：
　船外機ギヤオイル
推奨ギヤオイルグレード：
　SAE 90 API GL-4
ギヤオイル容量：
　0.075 L

JMU33556
## ボートへの設置条件

JMU33566
### ボートの定格馬力
JWM01561
**⚠警 告**

**船体の最大搭載馬力を越える船外機を取り付けて航行すると、ボートが極度の不安定になる可能性があります。**

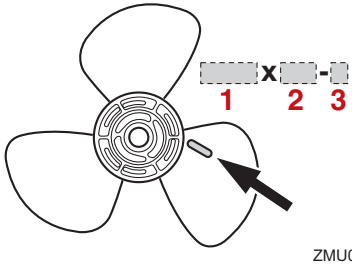
単機または複数の船外機を取付ける前に、船外機の合計馬力が船体の最大搭載馬力を越えていないか確認してください。ボートの銘板を参照するか、船体の製造業者に照会してください。

JMU40491
### 船外機の取り付け
JWM02501
**⚠警 告**

- **船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり、制御不能や火災などの危険な状況を引き起こしかねません。**
- **船外機は非常に重いものですから、安全に取り付けるためには、特殊な機器と訓練が必要です。**

船外機の取り付けは、ヤマハ販売店または船外機取り付けの経験を積んだ人が正しい機器を使用し、詳細なリギングに関するマニュアルを参照しながら行なってください。詳細は、20 ページを参照ください。

JMU34196
## プロペラ
ボートのオーナーにとって、プロペラの選択は船外機の次に重要な選択です。プロペラのタイプ、サイズ、そしてデザインは加速力、燃費、そしてエンジンの寿命にも直接影響してきます。ヤマハは各ヤマハ船外機に応じたプロペラを設計、製造しています。
お買い求めになった船外機には、多様な条件下を想定して最適と思われるプロペラを搭載していますが、用途により、他のプロペラの方が適している場合もあります。
ヤマハのディーラーは、お客様の必要に合わせたプロペラを選ぶお手伝いをします。最大積載量時にフルスロットルでエンジンの回転範囲の半分より上になるようなプロペラを選んでください。一般的に小さな負荷運転に対してはピッチの大きなプロペラ、負荷が大きければピッチの小さなプロペラを選びます。ボートの負荷に大きな変動がある場合は、最大負荷に合わせてプロペラを選びますが、負荷が小さいときにはエンジンスピード範囲内になるようにスロットルの設定を下げる必要があるかもしれません。
プロペラの点検に関しては、53 ページを参照してください。



ZMU04604

1. プロペラ直径（インチ）
2. プロペラピッチ（インチ）
3. プロペラの種類（プロペラマーク）

JMU44831

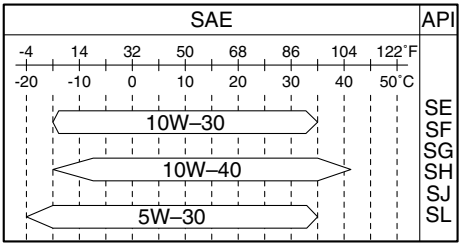
## エンジンオイルに関する項目

船外機を使用している地域の温度環境に合ったエンジンオイルを選んでください。

**推奨エンジンオイル：**
ヤマルーブ　4ストローク　マリンエンジンオイル
**推奨エンジンオイルグレード 1：**
SAE 10W-30/10W-40/5W-30
API SE/SF/SG/SH/SJ/SL
**推奨エンジンオイルグレード 2：**
SAE 15W-40/20W-40/20W-50
API SH/SJ/SL
**エンジンオイル容量：**
0.25 L

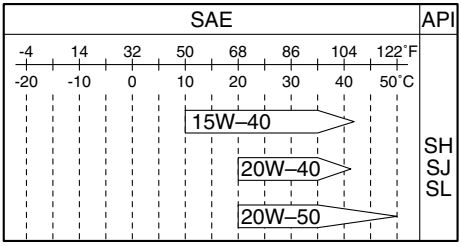
推奨エンジンオイルグレード 1 に記載されているエンジンオイルを入手できない場合、推奨エンジンオイルグレード 2 に記載されているエンジンオイルを使用してください。

**推奨エンジンオイルグレード 1**




ZMU06854

**推奨エンジンオイルグレード 2**

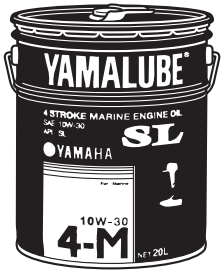



ZMU06855

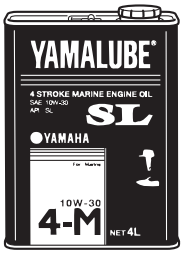
**ヤマハ純正エンジンオイルについて**
ヤマハ純正エンジンオイルはヤマハ船外機、マリンジェット4ストロークエンジン用に開発されたエンジンオイルです。

**ヤマハ純正エンジンオイル；**
ヤマルーブ 4 ストロークマリンエンジンオイル　10W-30　SL

1




2




3

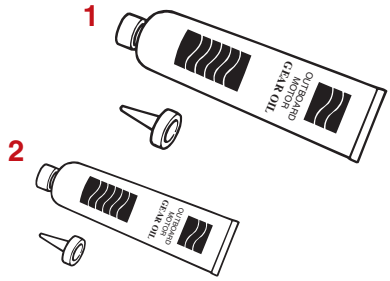



1. 20L
2. 4L
3. 1L

JMU30103

## ギヤオイル

**推奨ギヤオイル：**
船外機ギヤオイル
**推奨ギヤオイルグレード：**
SAE 90 API GL-4
**ギヤオイル容量：**
0.075 L




1. 800ml
2. 350ml

JMU36361

## 燃料に関する項目

JMU40182

### ガソリン

JCM01982

**注 意**

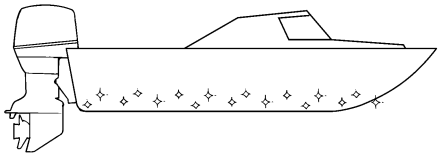
- **有鉛ガソリンを使用しないでください。有鉛ガソリンはエンジンに損傷を与える恐れがあります。**
- **燃料タンク内に水や不純物が入らないようにしてください。汚れた燃料は性能低下やエンジンの損傷を招く恐れがあります。必ず清潔なタンクで保管した、新しくきれいな燃料を使用してください。**

**推奨燃料：**
無鉛レギュラーガソリン

JMU36331

## 船底の清掃

船底の状態によってボートの性能は大きく変わります。船底は、海藻や貝類が付着しないように常にきれいに保っておくことが必要です。必要であれば、船底専用塗料を塗っておくと海藻や貝類が付着しにくくなります。塗料については、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。



ZMU05176

JMU40302

## 船外機の廃棄に関する項目

船外機を不法投棄しないでください。廃棄についてはヤマハ販売店にご相談ください。

JMU36353

## 非常時の装備

エンジン故障に備えて以下の物を船内に常備してください。

- 各種スクリュードライバー、プライヤー、レンチ（メートルサイズ分を含む）および絶縁テープ
- 防水フラッシュライトと予備電池
- クリップ付き予備エンジンシャットオフコード
- スパークプラグのスペアセットなどの交換部品

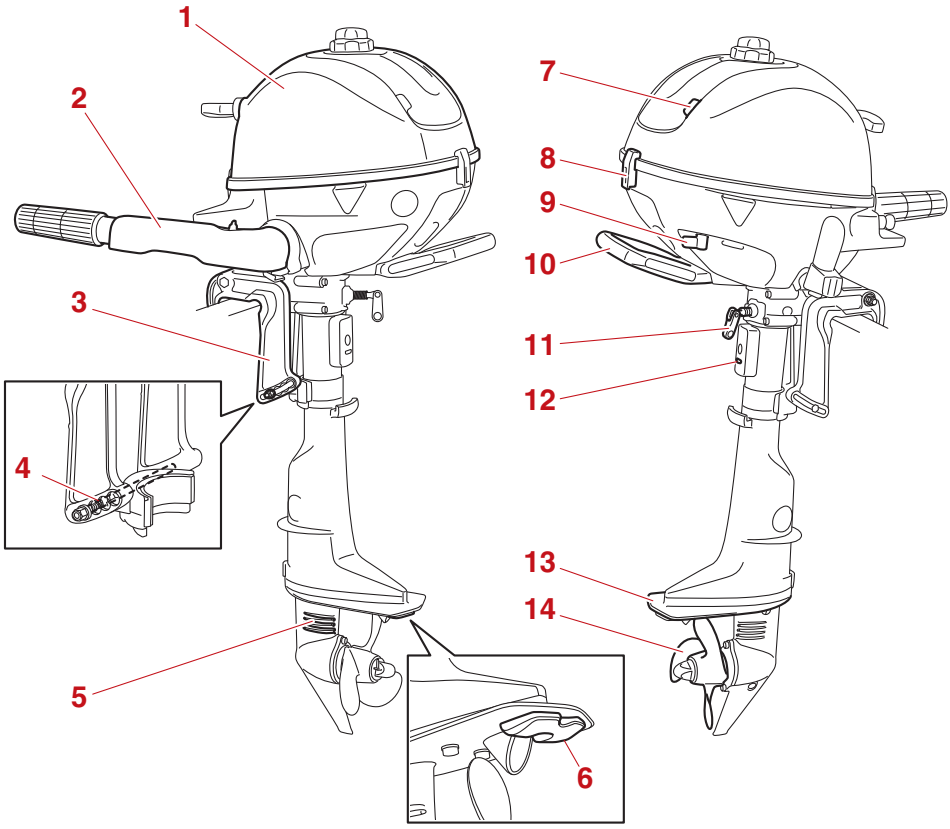
詳しくは、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU46722

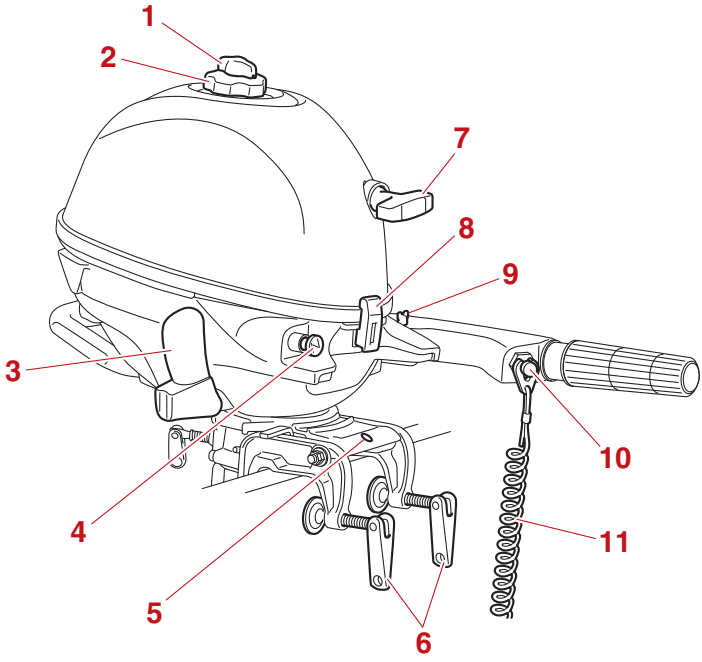
## 各部の名称

**要　点：**

燃料タンク、リモコン関連、メーター類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。
(*) 仕様により異なります。




1. トップカウル
2. ティラーハンドル
3. クランプブラケット
4. チルトピン
5. 冷却水取入口
6. アノード
7. インテークグリル
8. カウルロックレバー
9. 燃料コック
10. キャリングハンドル
11. ステアリングフリクションアジャスター
12. アイドルホール
13. キャビテーションプレート
14. プロペラ




1. エアベントスクリュ
2. 燃料タンクキャップ
3. ギヤシフトレバー
4. チョークノブ
5. 係船ロープアタッチメント
6. クランプスクリュー
7. マニュアルスターターハンドル
8. カウルロックレバー
9. スロットルフリクションアジャスター
10. エンジン停止ボタン／緊急エンジン停止スイッチ
11. エンジンシャットオフコード

JMU39545

## 燃料タンク（一体型燃料タンク）

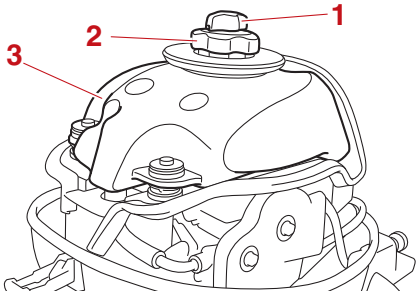
船外機には、一体型燃料タンクが装備されています。一体型燃料タンクには以下の部品があります。

**燃料タンクキャップ**

燃料タンクキャップを取り外すには、反時計方向に回します。燃料タンクキャップを取り付けるには、時計方向に回します。

**エアベントスクリュ**

エアベントスクリュは燃料タンクキャップに付いています。反時計方向に回すと緩みます。



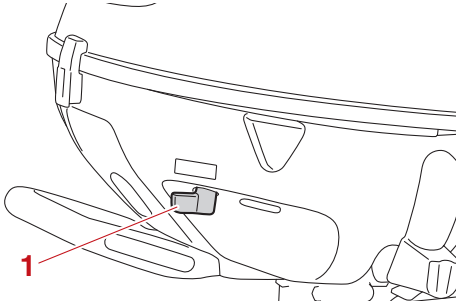

1. エアベントスクリュ

2. 燃料タンクキャップ
3. 一体型燃料タンク

JMU42995

## 燃料コック

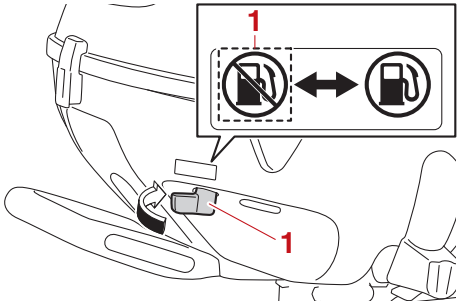
燃料コックは燃料タンクからエンジンへの燃料を供給、停止させるためのものです。




1. 燃料コック

**燃料コック“閉”**

燃料タンクからの燃料の供給が止まります。エンジン運転中以外は、常時この位置にしておきます。

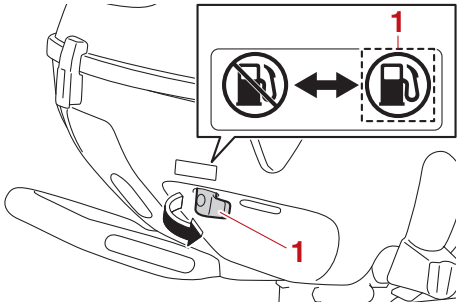



1. 全閉位置

**燃料コック“開”**

燃料タンクからキャブレタへ燃料が流れます。

エンジン運転中は、この位置にしておきます。

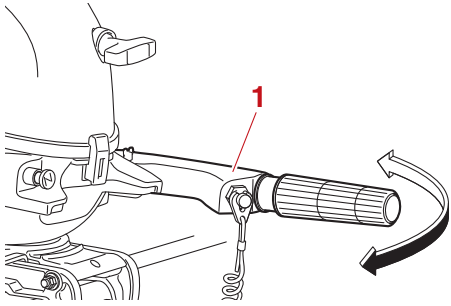



1. 全開位置

JMU25914

## ティラーハンドル

舵取り操作は、ティラーハンドルを左右に動かして行います。

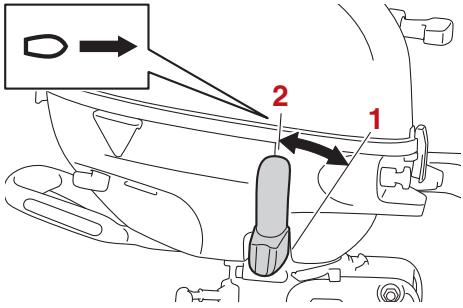



1. ティラーハンドル

JMU25931

## ギヤシフトレバー

前方（船首側）へ倒すと前進します。

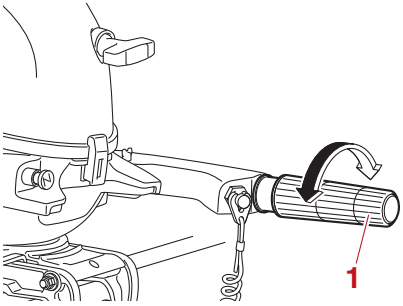



1. 前進の位置
2. 中立（ニュートラル）の位置

JMU25943

## スロットルコントロールグリップ

ティラーハンドルの先端にあります。反時計方向に回せば加速し、時計方向に回せば減速します。

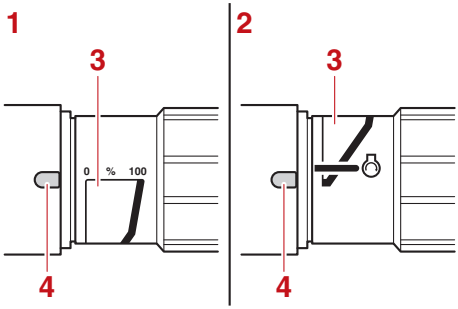



1. スロットルコントロールグリップ

JMU39713

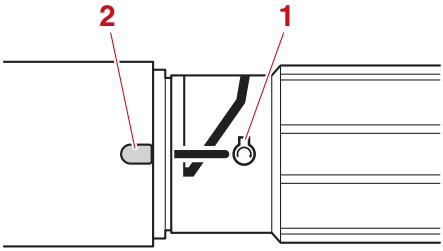
## スロットルインジケーター

スロットルインジケーターは、スロットルの開度を示します。スロットルインジケーターが 100% のときは全開を示します。スロットルインジケーターが0%のときは全閉を示します。




1. 全開
2. 全閉
3. スロットルインジケーター
4. 合わせマーク

スタートマーク “⏻” は、エンジン始動時のスロットル位置を示します。




1. スタートマーク “⏻”
2. 合わせマーク

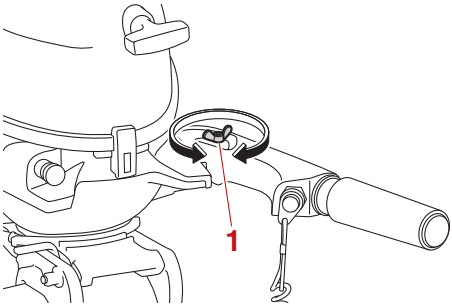
JMU39244

## スロットルフリクションアジャスター

スロットルフリクションアジャスターは、操船者の好みに合わせて、スロットルコントロールグリップの動きの重さ（抵抗）を調整することができます。

重さ（抵抗）を増やすには、スロットルフリクションアジャスターを時計方向に回します。

重さ（抵抗）を減らすには、スロットルフリクションアジャスターを反時計方向に回します。一定のスピードを保ちたい場合は、スロットルフリクションアジャスターを締めてスロットルコントロールグリップの設定を固定します。**警告！ スロットルフリクションアジャスターを、締めすぎないでください。スロットル操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。** [JWM02262]

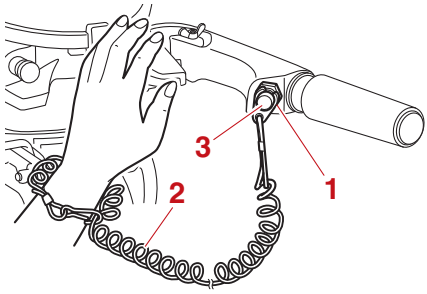



1. スロットルフリクションアジャスター

JMU25996

## 緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船不能に陥ったとき、エンジンシャットオフコードが伸びてロックプレートが外れ、エンジンを急停止させ船の暴走を防ぐ仕組みになっています。エンジンシャットオフコードは確実に操船者の衣服または手、足に取り付けてください。**警告！ 操船中はエンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはエンジンシャットオフコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。航走中はエンジンシャットオフコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**[JWM00123]

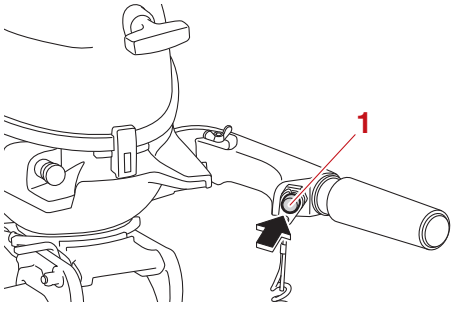



1. ロックプレート
2. エンジンシャットオフコード
3. 緊急エンジン停止スイッチ

JMU26004

## エンジン停止ボタン

エンジン停止ボタンを押すと、エンジンが停止します。

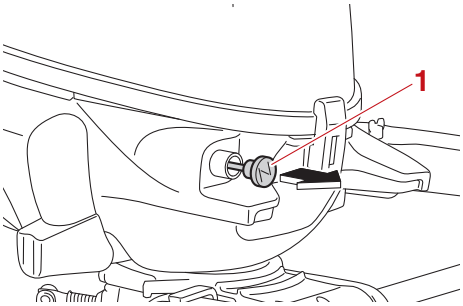



1. エンジン停止ボタン

JMU26015

## チョークノブ（プルタイプ）

チョークノブを引くことにより、冷えているエンジンの始動に必要な濃い混合気が供給されます。

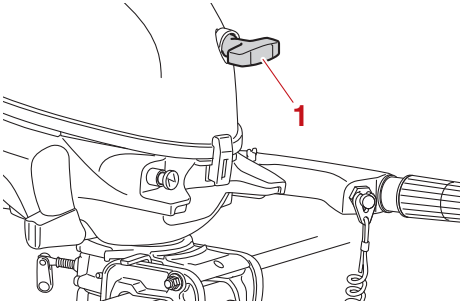



1. チョークノブ

JMU26075

## マニュアルスターターハンドル

マニュアルスターターハンドルは、エンジンをクランキングさせ始動するときに使います。




1. マニュアルスターターハンドル

JMU42822

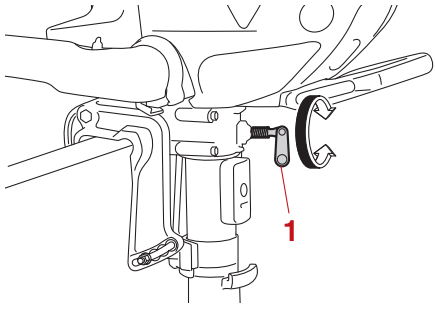
## ステアリングフリクションアジャスター

JWM02271

**⚠警 告**

**ステアリングフリクションアジャスターを締めすぎないようにしてください。ステアリング操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。**

ステアリングフリクションアジャスターは、操船者の好みに合わせて、ステアリングの動きの重さ（抵抗）を調整することができます。ステアリングフリクションアジャスターはスイベルブラケットについています。



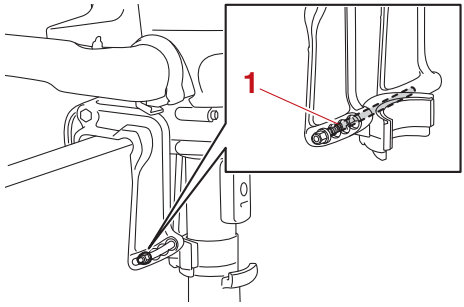

1. ステアリングフリクションアジャスター

重さ（抵抗）を増やすには、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。
重さ（抵抗）を減らすには、ステアリングフリクションアジャスターを反時計方向に回します。

JMU40102

## チルトピン

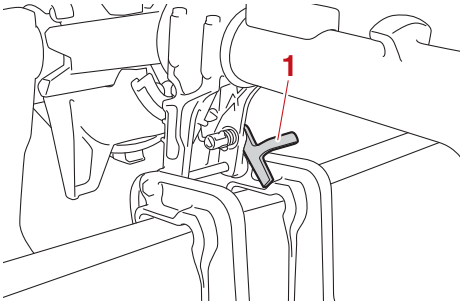
チルトピンは、ボートトランサムの角度に合わせて、船外機の角度を調整するときに使います。




1. チルトピン

JMU46990
### チルトロック機構
チルトロック機構は、船外機を 180 ° 回転させて後ろ向きで航走した時に、船外機が水面に跳ね上がるのを防止するためのものです。船外機を 180 ° 回転させて後ろ向きで航走した時に、チルトロック機構が作動し、船外機が跳ね上がるのを防止します。
船外機を前向きに回転させるとチルトロック機構は解除され、船外機をチルトアップできます。

JMU42602
### チルトサポートレバー
船外機をチルトアップした状態で保つには、チルトサポートレバーをブラケットの最上段にセットします。

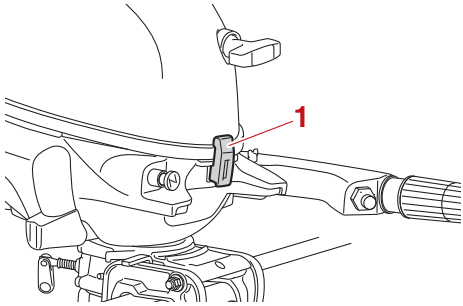



1. チルトサポートレバー

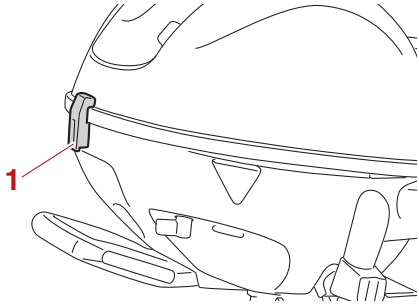
JCM00661
**注 意**

**ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が勢いよく降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。**

JMU39264
### カウルロックレバー
カウルロックレバーは、トップカウルを固定するためのレバーです。

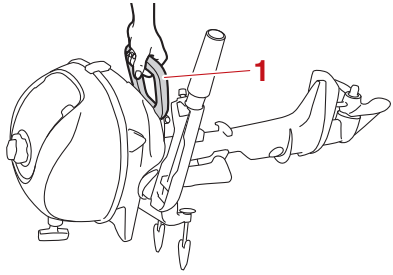



1. カウルロックレバー




1. カウルロックレバー

JMU39373
### キャリングハンドル
キャリングハンドルは船外機を持ち運ぶ時に使用します。船外機の運搬方法は 39 ページを参照してください。




1. キャリングハンドル

JMU39732

## 船外機の取り付け

船外機と船体の組み合わせは多種多様なため、それぞれの仕様によって取り付け方法は必ずしも同一ではありません。この章では、標準的な船外機の取り付け方法を説明しています。

JWM02342

**⚠警 告**

- **船体の最大搭載馬力を越える船外機を搭載すると、ボートの安定性を大きく損ないます。ボートの最大搭載馬力より大きい船外機を取り付けないでください。ボートの最大搭載馬力が不明な場合は、ボートメーカーにお問い合わせください。**
- **船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり制御不能や火災など危険な状況を引き起こす恐れがあります。船外機を正しく取り付けできない場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。**

JMU42942

### ボートトランサムへの取り付け

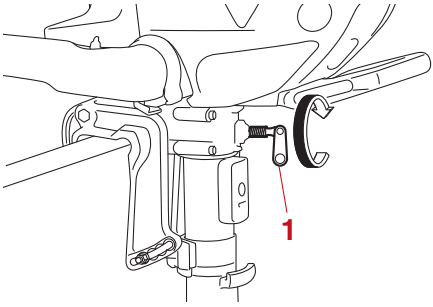
JWM02291

**⚠警 告**

**船外機の取り付けや取り外しを行うときは、船外機が落下する恐れがあるため、トップカウルやティラーハンドルを持たないでください。**

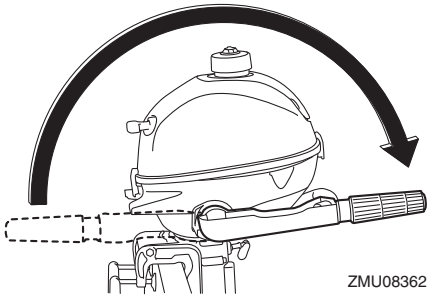
(1) 船外機の取り付け作業は必ず陸上で行ってください。船体が水上にある場合は、船体を陸上に引き揚げます。

(2) ステアリングが動くのを防ぐために、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。

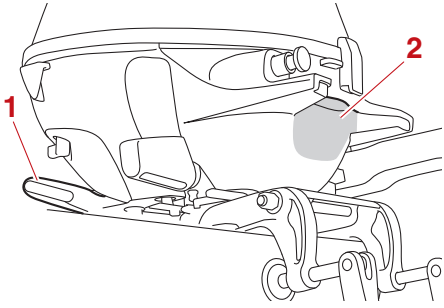



1. ステアリングフリクションアジャスター

(3) ティラーハンドルを船首側から船尾側に 180° 倒します。

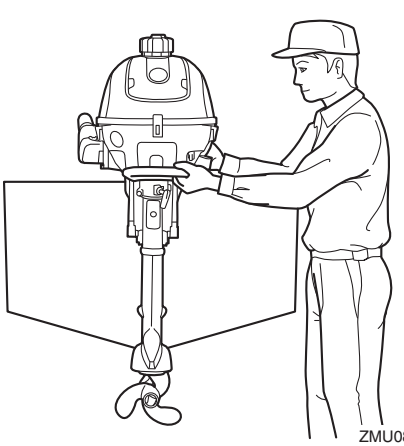



(4) キャリングハンドルとハンドグリップをつかんで持ち上げます。

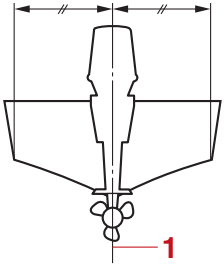



1. キャリングハンドル
2. ハンドグリップ

# 船外機の取り付け


ZMU08364

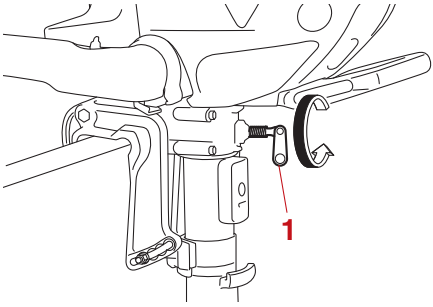
(5) 船外機はボートトランサムの中央（船体中心）に取り付けます。その時に操船に支障をきたさないよう、ボートの安定性が良いことを確かめます。ボートの仕様等により取り付けが困難な場合はヤマハ取扱店にご相談ください。




1. センターライン（キールライン）

(6) ステアリングフリクションアジャスターを反時計回りに回して緩め、ステアリングの動きを操船者の好みに合わせ調整します。**警告！ ステアリング操作の抵抗が大きすぎると操作に支障をきたし事故につながる恐れがあります。**

[JWM00722]

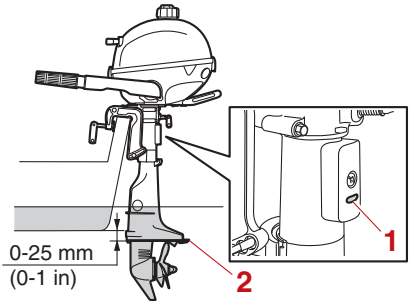



1. ステアリングフリクションアジャスター

JMU39742

**取り付け高さ**

効率のよい航走をするためには、船外機と船体の水の抵抗をできる限り減らす必要があります。船外機の取り付け高さは水の抵抗に大きく影響を与えます。取り付け高さが高すぎる場合は、航走中にキャビテーションをおこし推進力が低下します。同時にエンジン回転数が異常に高くなりオーバーヒート等の原因となる恐れがあります。取り付け高さが低すぎる場合は、水の抵抗が増え推進効率が低下します。一般的には船外機キャビテーションプレートの位置が、船底（キール）から 25mm 下方の間に収まるように取り付けます。




1. アイドルホール
2. キャビテーションプレート

JCM02171

**注 意**

- **ボートが最大積載状態で停止している時でも、船外機のアイドルホールが水面から十分に高く、エンジンに水が入らない位置であることを確認してください。**
- **エンジンの高さが不適当であるか、水流に対する障害（ボートの設計や状態）が存在すると、ボートが航行している間、水しぶきが発生することがあります。水しぶきがある状態でエンジンを連続運転すると、トップカウルのインテークグリルから船外機内に水が入り、エンジンに深刻な損傷を与える恐れがあります。水しぶきの原因を解消し航行してください。**

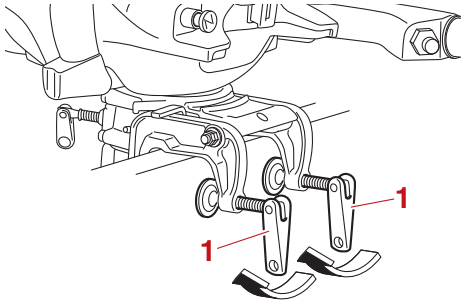
**要 点：**

- 船外機と船体仕様の組み合わせによっては、取り付け高さは一律ではありません。試走して最良の取り付け高さを決めてください。
- トリム角度については 34 ページを参照ください。

JMU39753

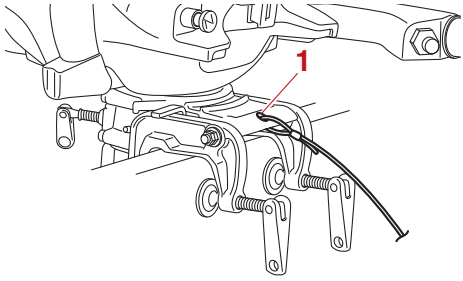
**船外機の取り付け**

(1) 船外機をボートトランサムの中央に持っていきます。クランプスクリューを確実に締め込みます。運転中に振動でクランプスクリューが緩まないように時々、締まり具合を点検します。**警告！クランプスクリューが緩むと、船外機がボートトランサム上を移動したり、脱落したりします。その結果、操船に支障をきたし事故の原因となる恐れがあります。クランプスクリューは、確実に締め付けてください。**[JWM00643]




1. クランプスクリュー

(2) 船外機が脱落したときのためにロープ等を準備し、一方の端をエンジン側の係船ロープアタッチメントに結び、他方を船体の丈夫な場所に結びます。そうすることにより何らかの原因で船外機がボートトランサムから脱落した場合、回収が可能です。




1. 係船ロープアタッチメント

JMU36382

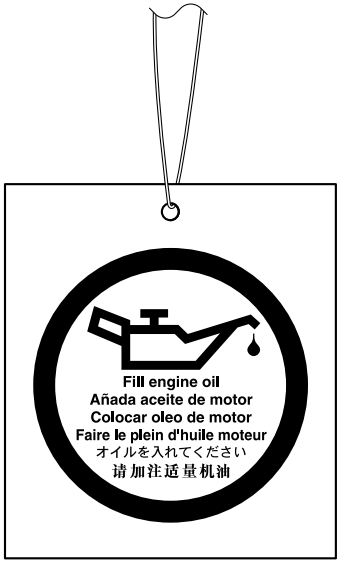
## 初めてお使いになる前に

JMU36393

### エンジンオイルの補給

船外機は、エンジンオイルを入れずに出荷されています。販売店がオイルを補充しなかった場合は、エンジン始動前にご自身でオイルを補充してください。***注意：*重大なエンジンの損傷を防ぐために、最初にエンジンを始動する前にオイルが補充されているか点検してください。**[JCM01782]

出荷した船外機には次のようなタグが取り付けられています。購入後初めてエンジンオイルを補充した後、このタグを取り外してください。オイル量のチェックについては 25 ページを参照してください。




ZMU01710

JMU30175

### 慣らし運転

新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。慣らし運転を正しく行なうことにより初期性能をいかんなく発揮し、エンジンの構成部品の寿命も延びます。***注意：*慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が減るばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。**[JCM00802]

JMU40061

### 慣らし運転の手順

新しい船外機は、摺動部品が均等になじむように、10 時間程度の「慣らし運転」を行う必要があります。

**要　点：**

エンジンを水中で、以下の負荷で（プロペラを取り付けた状態）運転してください。10 時間の慣らし運転の時は、長時間のアイドリング運転を避け、また高い波や船舶が密集した水域を避けるようにしてください。

(1) 最初の 1 時間：
エンジンを最大 2000r/min まで回転を上げながら運転するか、またはスロットルの開度を約半分で運転します。

(2) 次の 1 時間：
スロットルの開度を約 4 分の 3 もしくは、エンジン回転数を 3000r/min 付近で運転してください。

(3) 最後の 8 時間：
エンジンを任意の速度で回転させます。しかし、一度に 5 分間以上スロットルを全開の状態で走らせないようにしてください。

(4) 10 時間以降：
通常にご使用できます。

JMU36402

### ボートをよく知ろう

ボートにより扱い方は異なります。ボートを異なる条件、トリム角度で操縦することを練習している間は、注意して運転してください。34 ページを参照ください。

JMU36414

## 始動前点検

JWM01922

**⚠警 告**

**始動前点検中に異常が見つかったときには、修理や整備を済ませてから使用してください。事故につながる恐れがあります。**

JCM00121

***注 意***

**冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。オーバーヒートしてエンジンが損傷します。**

JMU36561

### 燃料残量

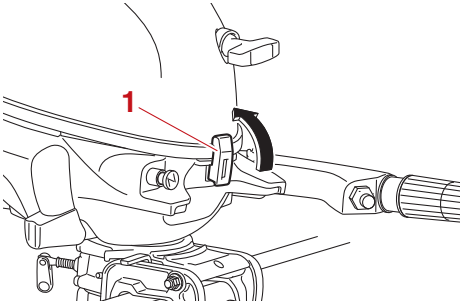
航行に必要な燃料を十分積んでいることを点検してください。燃料消費の良い目安は、三分の一で目的地に達し、帰路用に三分の一を使用し、残る三分の一は非常用予備としておくことです。トレーラまたは水上で水平に保持し燃料残量を点検してください。燃料の補給については、27 ページを参照してください。

JMU43713

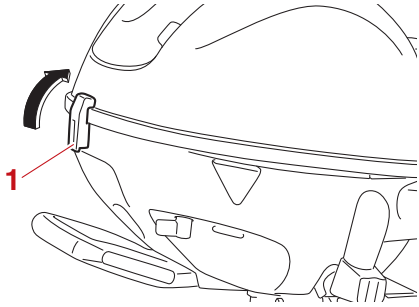
### トップカウルの取り外し

船外機からトップカウルを取り外して以下の点検を行ってください。

(1) カウルロックレバーのロックを外します。




1. カウルロックレバー

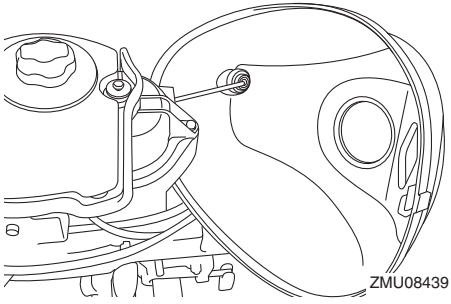



1. カウルロックレバー

(2) トップカウルをゆっくり持ち上げます。

**要 点：**

- トップカウルはマニュアルスターターケースと繋がっています。エンジンがスタートする恐れがあるため、トップカウルを勢いよく外さないでください。
- トップカウルをマニュアルスターターケースから取り外すには、マニュアルスターターハンドルを外す必要があります。詳しくはヤマハ取扱店にご相談ください。
- エンジン運転中にトップカウルを外すと、マニュアルスターターからノイズが生じる場合があります。



JMU36443
## 燃料系統
JWM00061
**⚠警 告**

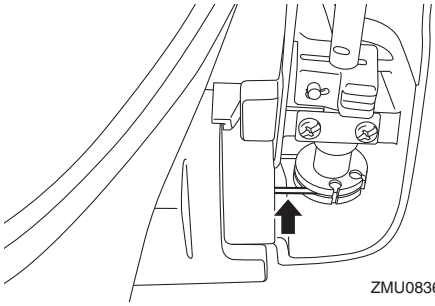
**ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。**

JWM00911
**⚠警 告**

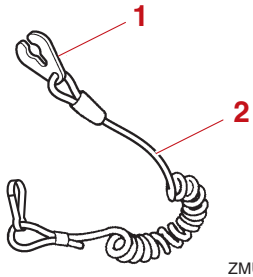
- **燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。**
- **燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。**

JMU36453
### 燃料漏れの点検
- ボート内の燃料漏れを点検してください。
- 燃料系統からの燃料漏れを点検してください。
- 燃料タンク及び燃料ホースを点検して、ひび割れ、膨れ、その他の損傷の有無を点検してください。

JMU36893
### コントロールシステムの点検
- ティラーハンドルを左右いっぱい動かして、スムーズに動くことを確認してください。
- スロットルコントロールグリップを全閉から全開に回し、動きがスムーズであることを確認し、スロットルコントロールグリップが完全に全閉位置に戻ることを点検してください。
- スロットルケーブルとシフトケーブルの接続の緩みや損傷がないか点検してください。


ZMU08368

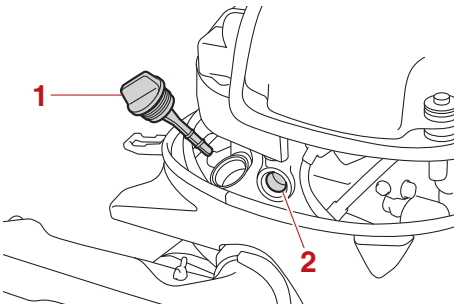
JMU36484
### エンジンシャットオフコード（ランヤード）
エンジンシャットオフコードやロックプレートに切れ目や割れ、摩耗などの損傷がないか点検します。



ZMU06873

1. ロックプレート
2. エンジンシャットオフコード

JMU39385
### エンジンオイル
(1) 船外機を垂直な状態にします。***注意：*船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルを正しく計ることはできません。**[JCM01791]
(2) トップカウルを取り外します。
(3) オイル給油キャップを外し、オイルレベルゲージに付着しているオイルを拭き取ります。

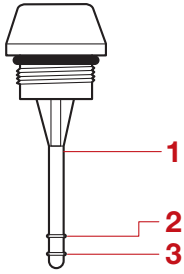



1. 給油キャップ
2. オイル潤滑確認窓

**要　点：**

オイル潤滑確認窓では、エンジンオイル量は確認できません。オイル潤滑確認窓は、エンジン運転中に、エンジンオイルが潤滑していることを確認する時に使用します。

(4) オイル給油キャップを完全に締め付けます。
(5) 再びオイル給油キャップを外し、オイルの油面がオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの間にあるか確認します。油面が下限マークより低い場合はオイルを補充します。油面が上限マークより高い場合は、上限マークと下限マークの間にくるまでオイルを抜き取ります。




1. オイルレベルゲージ
2. 上限マーク
3. 下限マーク

(6) オイル給油キャップを完全に締め付けます。
(7) トップカウルを取り付けます。

JMU27154

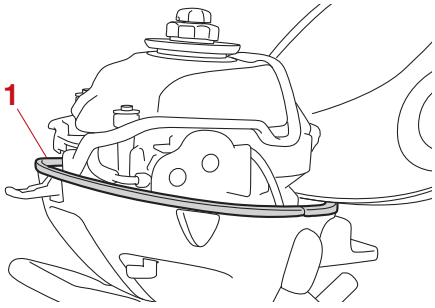
### 船外機本体

- エンジン取り付けボルトの緩みや、取り付けの状態を点検してください。
- プロペラの損傷を点検してください。
- エンジンオイル漏れを点検してください。

JMU42982

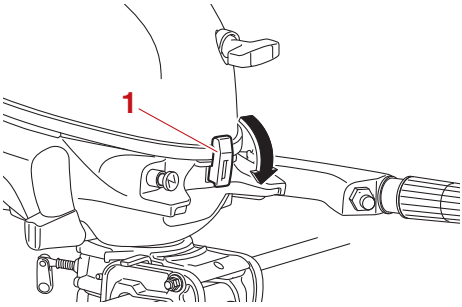
### トップカウルの取り付け

(1) ラバーシールに損傷が無いことを確認します。損傷があった場合は、ヤマハ販売店に修理を依頼してください。

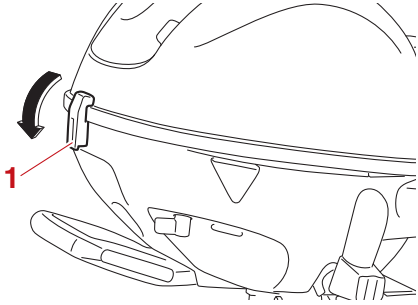



1. ラバーシール

(2) ラバーシールがボトムカウルに確実に付いていることを確認します。
(3) すべてのカウルロックレバーが外れていることを確認します。
(4) トップカウルをボトムカウルの上に置きます。
(5) 図のようにカウルロックレバーを動かしてトップカウルをロックします。

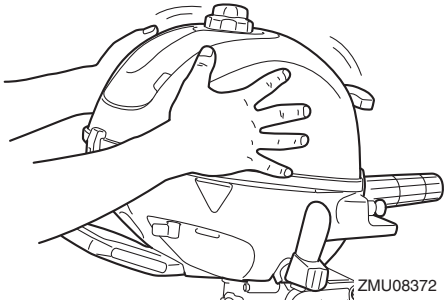



1. カウルロックレバー




1. カウルロックレバー

(6) トップカウルが確実に取り付けられているか、両手で点検します。***注意：*トップカウルを正しく取り付けないとカウル内に水が浸入し、エンジンの損傷を招く恐れがあります。また高速航行時にトップカウルが吹き飛ぶ恐れがあります。**[JCM02371]




JMU46611

## 燃料タンクへの給油

JWM01951

**⚠警 告**

**ボートトランサムや専用スタンドに船外機をしっかりと固定してください。**

JWM01831

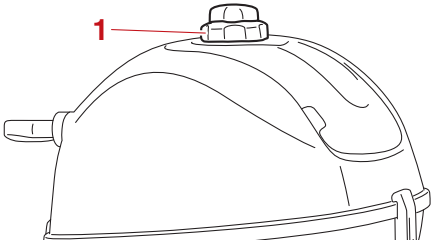
**⚠警 告**

- **ガソリンおよびそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発する恐れがあります。火災や爆発の危険を回避するために、常にこの手順に従って給油してください。**
- **ガソリンは毒性があり、傷害または死亡に至る恐れがあります。取り扱いには十分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは決してしないでください。万一、ガソリンを飲み込んだり、または多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、ただちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹸と水で洗ってください。衣類に付着した場合は、着替えてください。**

以下の項目を確認してから給油をしてください。

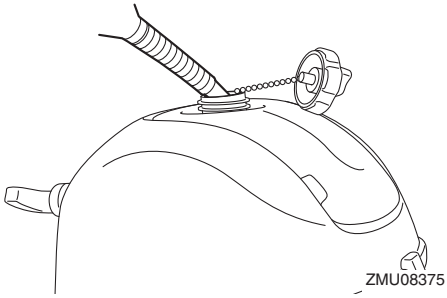
- ボートを換気の良い場所にしっかり係留してください。トレーラ上に搭載した場合は、安定した状態であることを確認し、エンジンを停止してください。
- タバコを吸わないでください。また、スパーク（火花）、火炎、静電気その他の発火源から離してください。
- 携帯用のガソリン容器を使用して燃料の貯蔵と給油を行う場合は、消防法に適合したガソリン容器のみを使用してください。
- 静電気による火花を防止するために、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

(1) 燃料タンクキャップを開けます。




1. 燃料タンクキャップ

(2) 燃料タンクに燃料を給油します。**警告！燃料を入れすぎないようにしてください。入れすぎた場合、温度の上昇によって、燃料が膨張し溢れることがあります。**[JWM02611]




**燃料タンク容量（一体型燃料タンク）：**
0.9 L

(3) 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
(4) こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

JMU27453

## エンジン操作

JWM00421

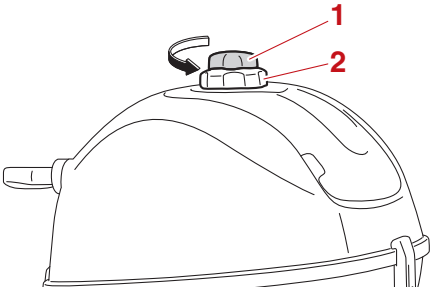
**⚠警 告**

- **エンジン始動前にはボートを確実に係留し、付近に遊泳者がいないことや、障害物等がないことを確認してください。**
- **エアベントスクリュを緩めるときは、燃料がにじみ出たり燃料の揮発蒸気が漏れることがあります。火災や爆発の原因となりますので、タバコ等の火気は近づけないでください。**
- **排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。**

JMU31515

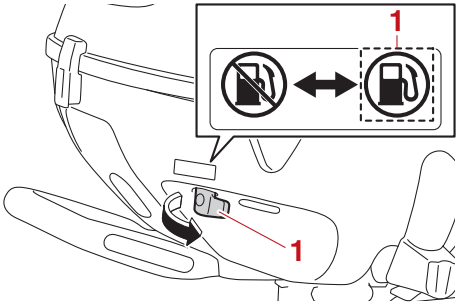
### 燃料供給

(1) エアベントスクリュを 1 回転緩めます。




1. エアベントスクリュ
2. 燃料タンクキャップ

(2) 燃料コックを開けます。




1. 全開位置

JMU27496
## エンジン始動
JWM01601

**⚠警 告**

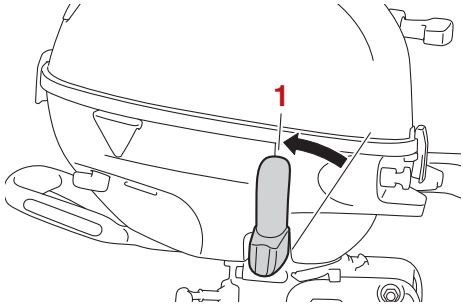
**エンジンを始動する前に、ボートがしっかり係留されていること、各作動部分がスムーズに機能することを確認してください。また、付近に遊泳者がいないことを確認してください。**

JMU46670
## 手動始動
JWM01842

**⚠警 告**

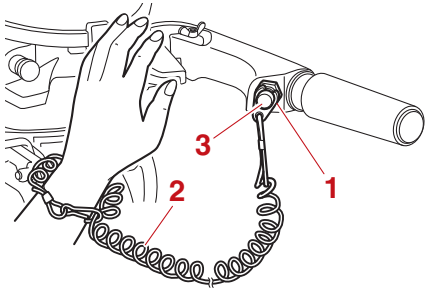
- **エンジンシャットオフコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はエンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはエンジンシャットオフコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はエンジンシャットオフコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。**警告！ 不意なボートの発進を避けるため、常に中立（ニュートラル）で始動してください。**[JWM00112]



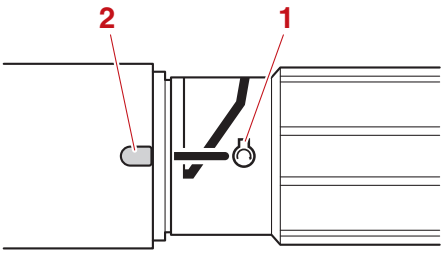

1. 中立（ニュートラル）の位置

(2) エンジンシャットオフコードを衣服、手もしくは足に確実に取り付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。




1. ロックプレート
2. エンジンシャットオフコード
3. 緊急エンジン停止スイッチ

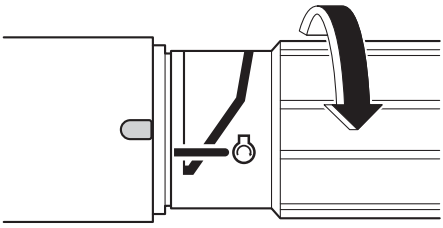
(3) スロットルグリップのスタートマーク“⏻”をティラーハンドルの合わせマークに合わせます。



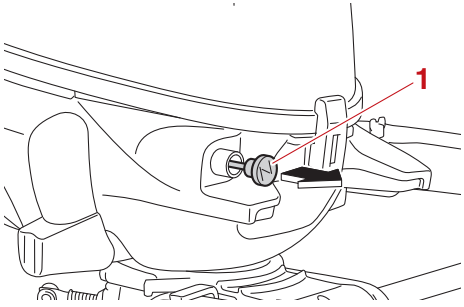

1. スタートマーク “⏢”
2. 合わせマーク

**要　点：**

-15ºC 以下のときは、スタートマーク “⏢” からさらにスロットルを開きます。




(4) チョークノブをいっぱいまで引きます。

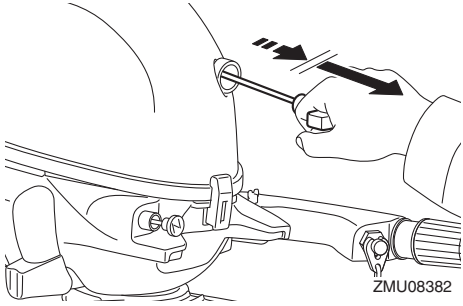



1. チョークノブ

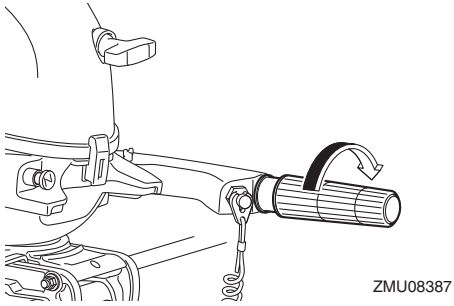
**要　点：**

暖機運転を行った直後などのエンジン再始動のときには、チョークノブを引く必要はありません。

(5) 抵抗を感じるまで、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと引きます。そこから、船首側に一気に強く引いてエンジンを始動させます。




(6) エンジン始動後は、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと元の場所に戻します。
(7) 暖機運転をします。暖機運転については、31 ページを参照してください。
(8) チョークノブを戻します。
(9) スロットルコントロールグリップを全閉の位置に戻します。



JMU36511

## エンジン始動後の点検

JMU41361

### 冷却水

冷却水点検孔から勢いよく水が出ていることを点検してください。水が排出されていると、ウォーターポンプが冷却経路を通じて水を送っていることを示しています。

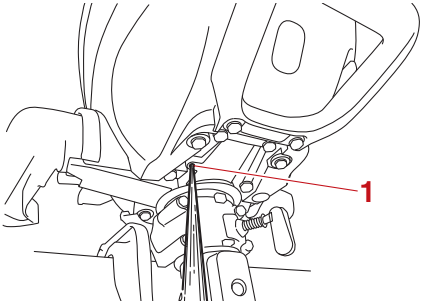
**要　点：**

エンジン始動時には、水が排出されるまで少し時間がかかることがあります。

JCM02251

**注 意**

**エンジンが回転中にもかかわらず冷却水点検孔から水が出ない場合は、オーバーヒートや重大な損傷が発生する恐れがあります。エンジンを停止して、ロワーケース上の冷却水取入口または冷却水点検孔の詰まりを点検してください。問題点が特定できず解決できない場合はヤマハ取扱店にご相談ください。**




1. 冷却水点検孔

JMU27671

## 暖機運転

JMU40073

### 暖機運転方法

エンジンが始動したらチョークノブを半分位戻し、最初の 5 分間程度はスロットルコントロールグリップを 5 分の 1 以下に押さえ運転しながら暖機をしてください。暖機後はチョークノブを戻します。***注意：*暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短くなることが考えられます。**[JCM04550]

**要　点：**

- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。
- -5°C 以下の時はエンジン始動後約 30 秒程チョークノブをいっぱいに引いたままにします。その後は通常の暖機と同じ操作をします。

JMU36532

## 暖機運転後の点検

JMU37541

### シフト操作

確実に係留し、スロットルを使用しない状態でシフトが前進、中立（ニュートラル）にスムーズに変わることを点検してください。

JMU36973

### エンジン停止スイッチ

以下の手順に従って、エンジン停止ボタンと緊急エンジン停止スイッチが正常に作動するか点検してください。

- エンジン停止ボタンを押すと、エンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外すと、エンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートが付いていない状態では、エンジンが始動しないことを点検してください。

JMU34894

## 前進／後進

JWM00181

**⚠警 告**

**前進、後進をする前に、付近に遊泳者がいないことや障害物等がないことを確認してください。**

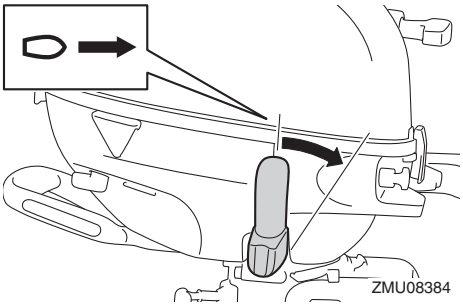
JCM01611

**注 意**

- **前進、後進の操作をする前に、暖機運転を行ってください。エンジンが暖まるまでは、通常よりアイドル回転数が高い場合があります。アイドル回転数が高いときは、シフトを中立（ニュートラル）の位置まで戻せない場合があります。アイドル回転数が高い場合は、エンジンを止め、シフトを中立（ニュートラル）にしてください。その後、エンジンを再始動して、暖機運転を行ってください。エンジン回転が下がらないまま、急激なシフト操作を行うとギヤ等に損傷を与える恐れがあります。**
- **前進、後進のシフト操作を頻繁に行う場合は、早めにオイル交換を行ってください。シフト操作を頻繁に行うと、部品の消耗や劣化が通常よりも著しく進行することがあります。**

前進への操作

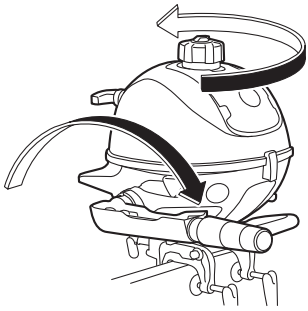
すみやかにギヤシフトレバーを船首側に倒します。



ZMU08384

後進への操作

(1) ステアリングを180°回転させ、ティラーハンドルを船首側へ倒します。

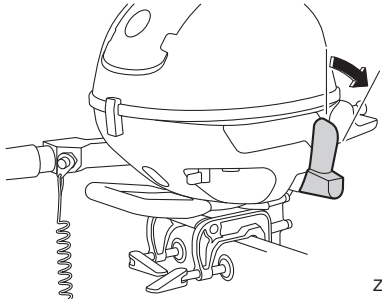


ZMU08385

**要 点：**

フルピボット仕様では、ステアリングを360°回転させることができます。

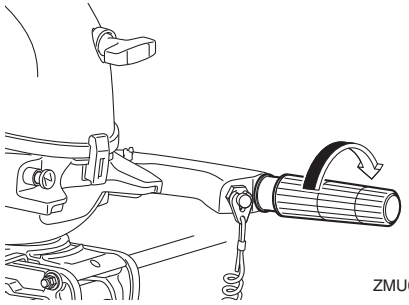
(2) すみやかにギヤシフトレバーを船尾側に倒します。



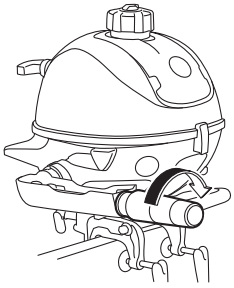
ZMU08386

中立（ニュートラル）への操作

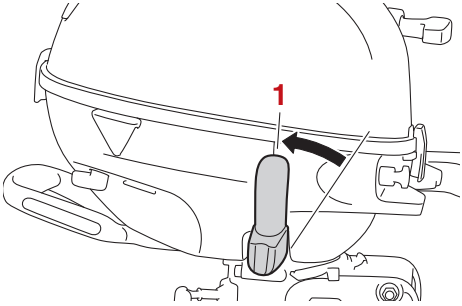
(1) アイドル回転数になるように、スロットルを閉じます。



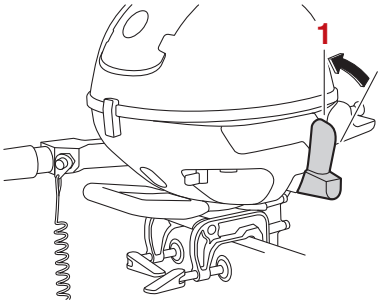
ZMU08387


ZMU08388

(2) アイドル回転数まで回転が落ちたら、すみやかにギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



1. 中立（ニュートラル）の位置



1. 中立（ニュートラル）の位置

JMU46290

## 停船

船には、停船装置がありません。スロットルを閉じた後、シフト中立（ニュートラル）に操作し、エンジン回転数減少に伴う水の抵抗により停船します。停船距離は、総重量、水面の状態、風向によって異なります。

JMU27823

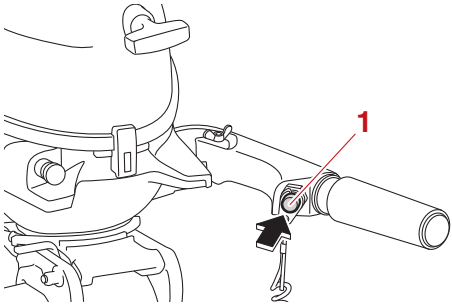
## エンジン停止

エンジンを冷やすために、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にして、数分間アイドリングを行います。高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

JMU31523

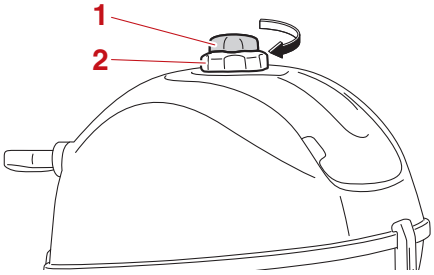
### エンジン停止手順

(1) エンジン停止ボタンをエンジンが停止するまで押します。

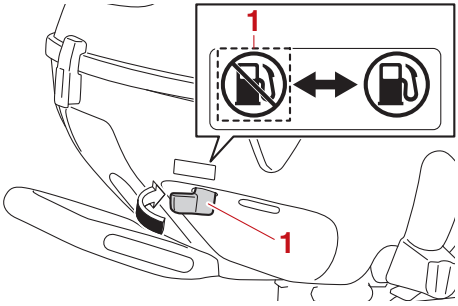


1. エンジン停止ボタン

(2) エンジン停止後はエアベントスクリュを閉め、燃料コックを閉めます。




1. エアベントスクリュ
2. 燃料タンクキャップ




1. 全閉位置

**要　点：**

エンジンシャットオフコードを引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜いてもエンジンは停止します。

JMU27865

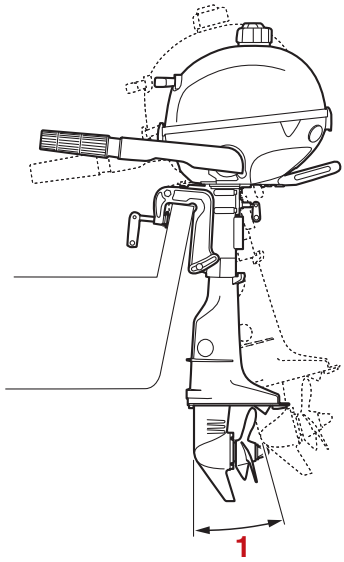
## 船外機トリム角度

JWM00741

**⚠警 告**

**過度なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じた場合は、ただちに航走スピードを落とすかトリム角度の再調整を行なってください。**

船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の高さの位置決めに使います。トリム角度が適正であれば、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合わせで決まります。また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。




1. トリム範囲

JMU42832

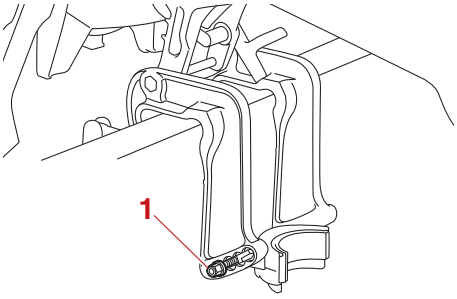
### トリム角度の調整

JWM04300

**⚠警 告**

- **トリム角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。**
- **チルトピンを動かす場合は、手を挟まれないように注意してください。**
- **チルトピンの位置を変えて最初に操船するときは、十分注意をしてください。徐々にスピードを上げ、ボートの安定性を欠く兆候や操作系の問題が無いかを見てください。不適切なトリム角度は、操船に支障をきたします。**

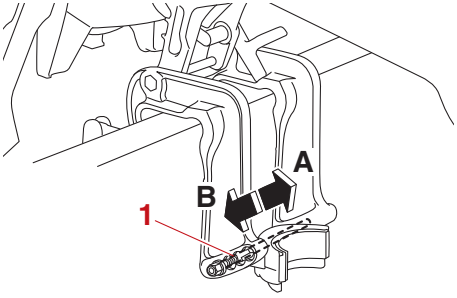
船外機のトリム角度は、4 段階で調整できます。
(1) エンジンを停止します。
(2) 船外機をチルトアップし、チルトサポートレバーを下ろして姿勢を保持します。（チルトアップについては36ページを参照してください。）
(3) クランプブラケットの左舷側についているナットを緩めます。




1. ナット

**要　点：**
水中に落とす可能性があるため、ナットは取り外さないでください。

(4) 船首を上げるときはチルトピンの位置を “A” 方向に動かします。船首を下げるときはチルトピンの位置を “B” 方向に動かします。




1. チルトピン

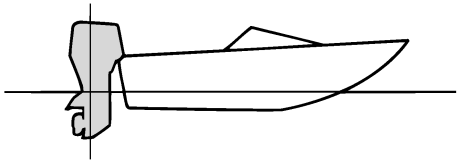
**要　点：**
船外機のトリム角度は、チルトピンを 1 段ずらすことにより約 4 ° 変わります。

(5) 船外機をチルトダウンします。
(6) トリム角度を変えて試走を行い、ボートの種類や使用状況に合わせて最適な位置を選んでください。

JMU27913

### トリム角度の設定とボートの取り扱い

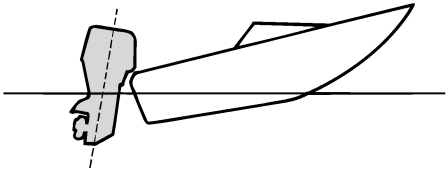
ボートが滑走する際、一般的に船首はキールラインが水面よりも 3º ～ 5º 上がっている状態が安定し、効率もよくなります。船外機トリム角度を大きく取ったときは、ボートは左右どちらかにハンドルを取られる傾向を示す場合があります。そのときはステアリング操作で補ってください。



ZMU01784

**船首上がり**

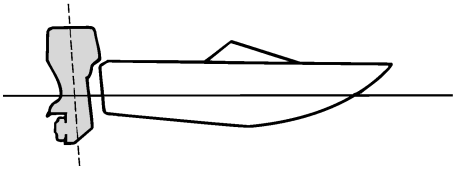
船外機のトリム角度を大きく取りすぎた場合は、航走中に船首が上がり過ぎます。この状態は船底への水の抵抗が増し、性能や燃費が低下します。更に過度のトリムアップは、プロペラがエアドローを引き起こし大きな性能低下を招きます。また、ボートが飛び跳ね乗員が船外へ投げ出される恐れもあります。



ZMU01785

**船首下がり**

船首が下がっているときは、停止状態からの発進加速が良くなります。高速航走での過度のトリムダウン（トリムイン）は、船首の抵抗が大きくなり、操船が困難となりボートの安定性を欠き危険を招く恐れがあります。



ZMU01786

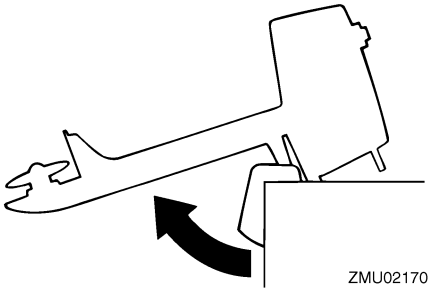
**要　点：**

ボートの種類によっては、船外機のトリム角度の調整を行なっても航走姿勢が殆ど変化しないこともあります。

JMU27924

## チルトアップ／ダウン

係留保管や浅瀬での係留時には、電蝕（水中の微弱電気による金属の腐蝕）や海草類の付着によってプロペラやロワーケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。



ZMU02170

JWM00223

**⚠警　告**

**チルトアップ／ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないこと確認してください。船外機とクランプブラケットの間に身体が挟まれる危険があります。**

JWM00231

**⚠警　告**

**燃料漏れは火災の原因となります。チルトアップするときは、燃料漏れを避けるためエアベントスクリュおよび燃料コックを閉じてください。**

JCM00232

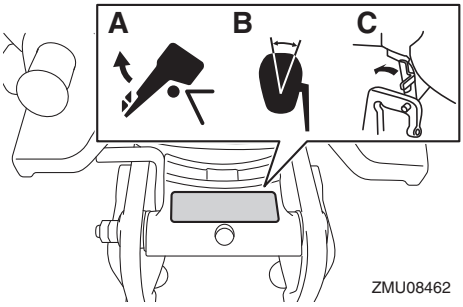
***注　意***

- **エンジンを停止してから、チルトアップしてください。**
- **エンジン運転中にチルトアップした場合、オーバーヒートによる損傷を受けます。**
- **ティラーハンドルを押さえつけてチルトアップしないでください。ティラーハンドルを損傷させる恐れがあります。**
- **ギヤシフトレバーが後進の位置にある時、またはステアリングを 180° きっている時はチルトアップできません。**

JMU42933

### チルトアップ

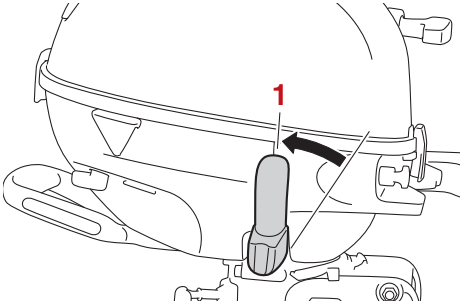
クランプブラケット上面に貼られているラベルを確認してから、以下の作業手順にしたがって作業を行ってください。




**要　点：**

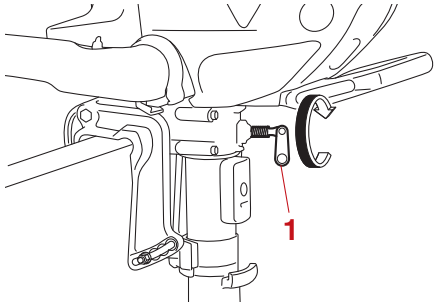
“A”：船外機をチルトアップします。
“B”：チルトアップをする時、船外機を前進方向（矢印の範囲）に向けてください。
“C”：一番上の位置までチルトアップすると、チルトサポートレバーが自動でロック位置に下がります。

(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にして、船外機の向きを前進方向にします。



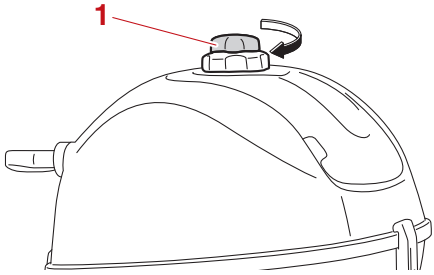

1. 中立（ニュートラル）の位置

(2) ステアリングが動くのを防ぐために、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。



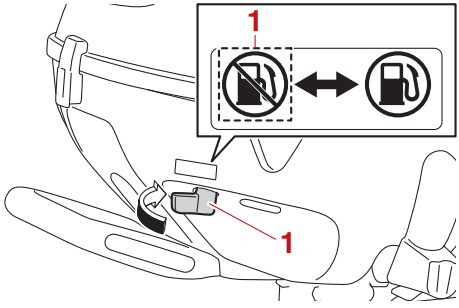

1. ステアリングフリクションアジャスター

(3) エアベントスクリュを閉じます。



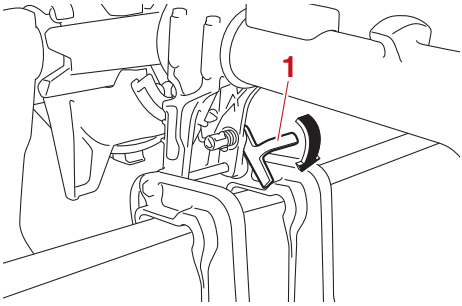

1. エアベントスクリュ

(4) 燃料コックを全閉位置に合わせます。




1. 全閉位置

(5) 片手でキャリングハンドルを持ち、チルトサポートレバーが自動的にロックする一番上の位置までチルトアップします。




1. チルトサポートレバー

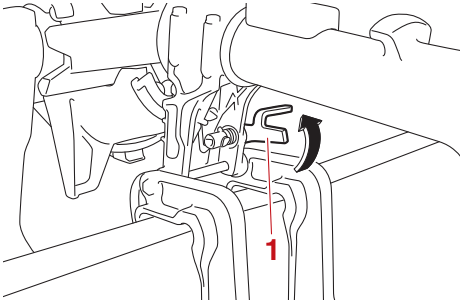
**要　点：**

船外機が前進方向を向いていないとチルトサポートレバーが固定されません。チルトサポートレバーが下がらないときは、船外機を少しだけ左右に振ってください。

JMU42952

### チルトダウン

(1) 船外機を少し持ち上げます。
(2) チルトサポートレバーを引き上げたままチルトダウンします。




1. チルトサポートバー

(3) ステアリングフリクションアジャスターを反時計回りに回して緩め、ステアリングの動きを操船者の好みに合わせ調整します。**警告！ ステアリング操作の抵抗が大きすぎると操作に支障をきたし事故につながる恐れがあります。**

[JWM00722]

JMU35392

## 他の航走状況

### 海水域での航行

海水域で航行後は、冷却経路を真水で勢いよく洗い流して、目詰まりが生じないようにしてください。船外機の外部も真水で洗ってください。

### 泥水や濁り水、酸性水域での航行

酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域を航行した後は、冷却経路を真水で洗い流し、腐食を防止してください。船外機の外部も真水で洗ってください。

JMU43053

## 運搬と保管

JWM02621

**⚠警 告**

- **燃料容器の最大容量まで燃料を入れないでください。ガソリンは暖まることによって膨張し、燃料容器が膨張します。燃料漏れや火災の原因になります。**
- **燃料漏れは火災の原因になります。船外機を運搬、保管する際は燃料ホースコネクターを船外機から外し燃料漏れを防止します。**
- **チルトアップした船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。**
- **ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が突然降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。**

JCM02441

***注 意***

**燃料を長期間保管する際は、燃料を燃料タンクから抜いてください。燃料の劣化により、燃料系統が詰まりエンジンが始動しにくくなるばかりでなく、エンジンが不調になる可能性があります。**

燃料を運搬や保管する際は、消防法に適合した携帯タンクに保管してください。
船外機を運搬、保管する場合、または係留保管やボートを牽引する時など長期間チルトアップする場合は、船外機の燃料コックを閉じ、燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。
船外機の運搬と保管は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具（トランサムバー等）を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMU42904

### 船外機の取り外しと運搬

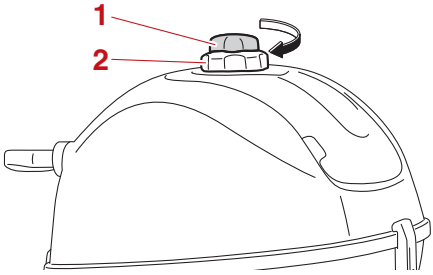
JWM02291

**⚠警 告**

**船外機の取り付けや取り外しを行うときは、船外機が落下する恐れがあるため、トップカウルやティラーハンドルを持たないでください。**

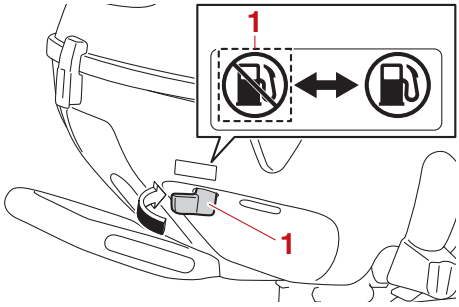
船外機の取り外し手順

(1) エンジンを停止して、船体を陸上に引き上げます。
(2) 燃料タンクキャップとエアベントスクリュをしっかり締めます。



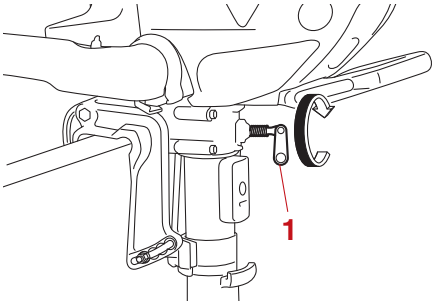

1. エアベントスクリュ
2. 燃料タンクキャップ

(3) 燃料コックを全閉位置に合わせます。



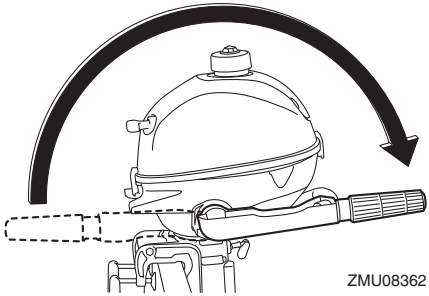

1. 全閉位置

(4) ステアリングが動くのを防ぐために、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。

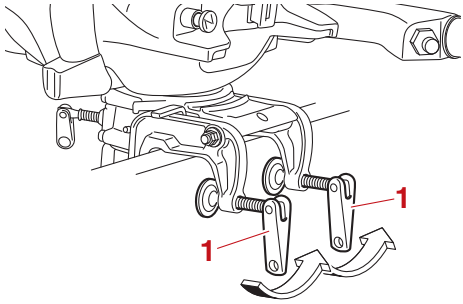



1. ステアリングフリクションアジャスター

(5) ティラーハンドルを船首側から船尾側へ 180° 倒して、後方に向けます。

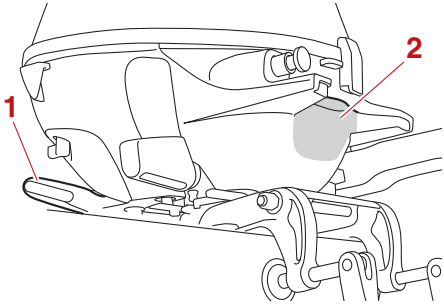



(6) クランプスクリューを緩めます。

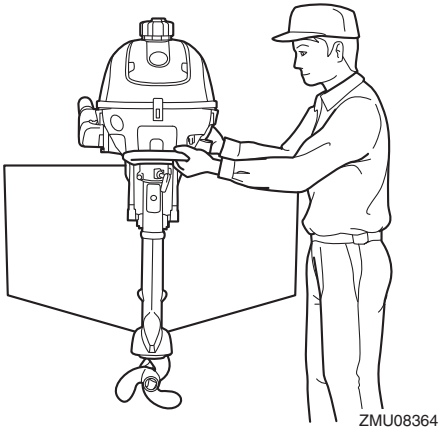



1. クランプスクリュー

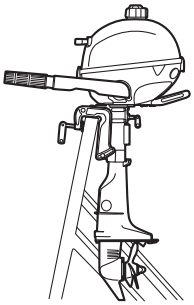
(7) キャリングハンドルとハンドグリップをつかみ、船外機を持ち上げて船体から取り外します。




1. キャリングハンドル
2. ハンドグリップ

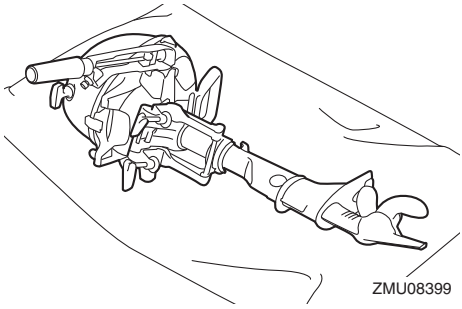


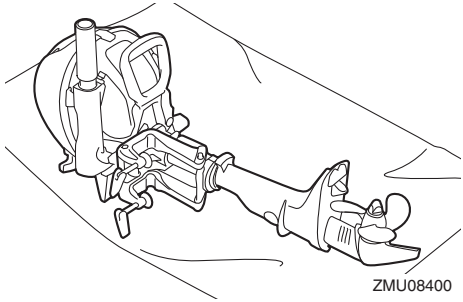
**船外機の運搬について**
船体から船外機を取り外して単体で運搬や保管を行なう場合は、船外機スタンドを使用することを推奨します。

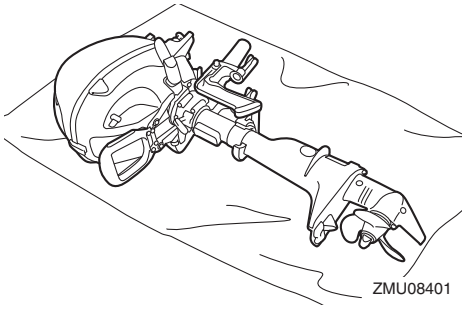

ZMU08398

上記の姿勢を保てない場合は
船外機を横置きで運搬する場合は以下の注意事項を守ってください。

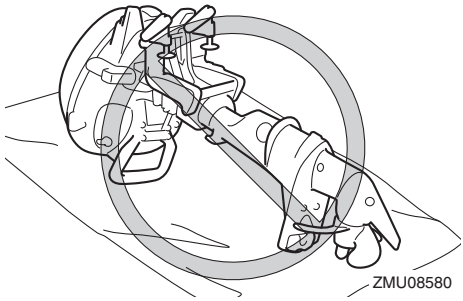
- クランプスクリューを完全に締め、船外機の下に必ずマットなどを敷いてください。船外機が傷ついたり、運搬時の振動で少量のオイルや冷却水が漏れる可能性があります。***注意：*****冷却水が完全に抜けるまで、船外機を横にして置かないでください。冷却水が排気側からシリンダー内へ流れ込み損傷の原因になります。**[JCM05010]
- 船首側を下向きにする場合、クランプブラケットが地面に接しないようにクランプブラケットを 90° 回転させ、ステアリングフリクションアジャスターを締めてから置いてください。

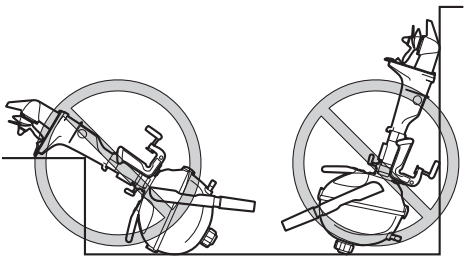

ZMU08399


ZMU08400


ZMU08401

- 上記以外の姿勢では船外機を横に置かないでください。


ZMU08580


ZMU08565

JMU43664
## 長期保管
船外機を長期にわたって保管する場合は、劣化損傷を防ぐためにヤマハ取扱店にて格納点検を受けられることをおすすめします。ご自身で長期保管される場合は、以下の作業を行ってから長期保管をしてください。

JCM02214
**注 意**

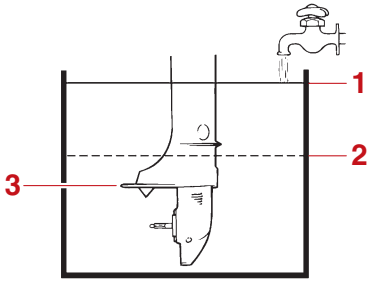
- **冷却水が完全に抜けるまで、船外機を横にして置かないでください。冷却水が排気側からシリンダー内へ流れ込み損傷の原因になります。**
- **“ 船外機の取り外しと運搬 ” で示された状態で運搬や保管を行ってください。**
- **船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行ってください。直射日光の当たる場所には置かないでください。**

JMU28306
## 保管手順
JMU43034
### 水槽を使った洗浄
JCM00302
**注 意**

**エンジン始動する前に、冷却経路に水を供給してください。冷却水を供給せずにエンジンを運転すると、オーバーヒートしてエンジンが損傷します。**

塩分、砂、ゴミなどによるエンジン冷却経路の目詰まりを防止するために洗浄が必要です。さらにエンジン内に防錆剤（マリンガード）を吹き込むことにより、錆による損傷を防ぐことができます。洗浄と吹き込みは同時に行ってください。

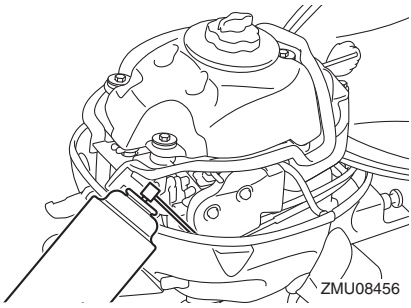
(1) 真水を使って船外機外部を洗ってください。***注意：*インテークグリルに水を噴きつけないでください。**[JCM01841] 詳細は 44 ページを参照してください。
(2) エアベントスクリュを閉め、燃料コックを全閉位置に合わせます。
(3) プロペラを取り外します。プロペラの取り外しについては、53 ページを参照してください。
(4) 船外機を水槽にいれます。
(5) キャビテーションプレートが浸かるまで真水を入れます。***注意：*水位がキャビテーションプレート以下の場合は冷却水の供給が十分に出来ず、エンジンに損傷をきたします。**[JCM00292]



1. 水面
2. 最低の水位
3. キャビテーションプレート

(6) シフトを中立（ニュートラル）にしてエンジンを始動させます。
(7) エンジンを停止させる前に、トップカウルをゆっくり持ち上げて、キャブレタに素早く防錆剤（マリンガード）を吹き込みます。排気に白煙が混じり、エンジンが止まります。**警告！ エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないで**

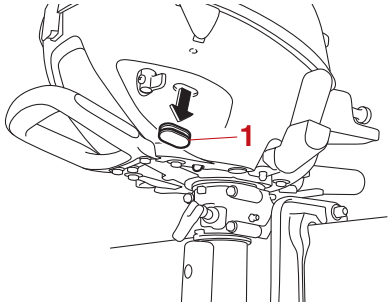
**ください。エンジン運転中は、手、髪、衣服等を回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**[JWM00092]




**要　点：**

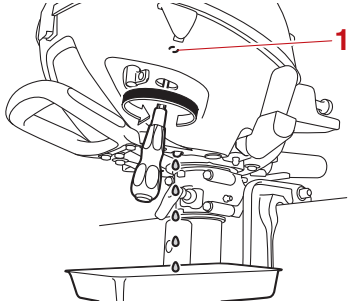
- エンジン運転中にトップカウルを持ち上げると、マニュアルスターターからノイズが生じる場合があります。
- 防錆剤（マリンガード）が入手できない場合、燃料系統内の燃料が無くなってエンジンが停止するまでアイドリング（無負荷最低速回転）で運転します。
  エンジンが停止したら、スパークプラグを外します。少量のエンジンオイルをシリンダー内へ注入し、手動でフライホイールロータを 4 ～ 5 回転させオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取り付けます。

(8) トップカウルを取り付けます。
(9) エアベントスクリュを 1 回転緩めます。燃料コックを全開位置に合わせます。
(10) グロメットを外します。




1. グロメット

(11) 容器を使ってドレンホースから出るガソリンを受けながらドレンスクリューを緩めます。




1. ドレンスクリュー

(12) ドレンスクリューを閉めます。グロメットを戻します。
(13) 燃料コックを全閉位置に合わせます。エアベントスクリュを閉めます。
(14) 水槽から船外機を取り出します。
(15) 船外機から冷却水を完全に抜き、表面を拭きあげます。
(16) プロペラを取り付けます。プロペラの取り付けについては、54 ページを参照してください。

JMU41072

**潤滑**

(1) ギヤオイルを交換します。ギヤオイル交換の手順は、54 ページを参照してください。ギヤオイル内に水が混ざっている

場合は、オイルシールが損傷しています。航走前にヤマハ取扱店にて、オイルシールの交換を行ってください。

(2) すべてのグリス給脂箇所を潤滑します。グリス給脂箇所の詳細は 48 ページを参照してください。

**要　点：**

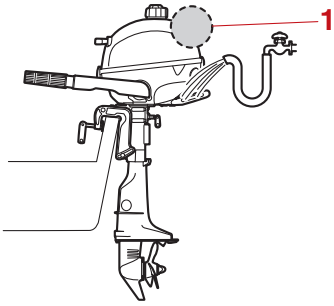
長期保存の場合は、防錆剤（マリンガード）をエンジンに噴霧することをおすすめします。防錆剤（マリンガード）と噴霧の方法については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU44342

### 船外機の洗浄

船外機を洗浄する際は、トップカウルを取り付けた状態で行ってください。

(1) 真水を使って船外機外部を洗ってください。***注意：*インテークグリルに水を噴きつけないでください。**[JCM01841]




1. インテークグリル

(2) 船外機から冷却水を完全に抜き、表面を拭きあげます。

JMU28463

### 船外機外装の点検

船外機本体表面の傷、破損、塗装の剥がれ、変色（白化）等がないか点検してください。塗装の剥がれがある場合は、ヤマハ船外機専用の塗料で補修してください。詳しくはヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU37077

## 定期点検

JWM01982

**⚠警　告**

**定期点検には特殊工具、補給品および技術スキルが必要です。お客様自身が整備作業についてあまり熟知されず、工具や補給品がない場合は、ヤマハ取扱店またはその他の有資格の整備士に保守を依頼してください。**
**この手順には、エンジンの分解作業と危険な部品の取り扱いが含まれます。可動、高熱または電気部品による負傷を防止するために：**

- **お客様自身で整備作業をおこなう場合は、特別な指示がない限り、エンジンを停止して、各キー類とエンジンシャットオフコードを自分の身に付けて保管してください。**
- **高熱の部品や各種液体の取扱いは、エンジンが冷えた後でおこなってください。**
- **取り外した部品は必ず組み付けてからエンジンを運転してください。**

JMU34152

### シビアコンディション

シビアコンディションとは、以下に示す操作を単独または組み合わせて行った場合を指します。

- 長時間にわたり、船外機を最大回転数(r/min)またはそれに近い回転数で継続して運転した場合
- 長時間にわたり、船外機を低い回転数(r/min) で継続して運転した場合
- 十分な暖機を行わず、また十分に冷やさないでエンジンを停止した場合
- 急加速と急減速を頻繁に行った場合
- シフト操作を頻繁に行った場合
- エンジンの始動と停止を頻繁に行った場合
- 積載物を軽い状態と重い状態とに頻繁に変化させて、運転した場合

上記のような条件で船外機を運転した場合、通常のメンテナンスサイクルよりも早いサイクルで整備を行う必要があります。当社

は、整備手帳に定めた整備の周期に対し、その 1/2 の間隔で整備を行うようにお客様に勧告致します。たとえば、ある整備を 50 時間毎に実施すると定めている場合は、( 上記のような過度の取扱い条件の場合 )25 時間毎に整備を行ってください。そうすることにより、エンジン構成パーツの短期間での劣化を防ぐことができます。

JMU3056G

## 定期点検表 1

### 要　点：

- 作業内容についての説明は本章の各項目を参照してください。
- この点検表は1年200時間を想定したメンテナンスサイクルで、使用後には冷却水通路の水洗が行われていることが基本となっています。シビアコンディションで使用した場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めに点検を行ってください。
- 各部の点検結果により分解・修理作業を必要とする場合があります。
- 消耗部品及び油脂類は、保証期間によらず使用過程で確実に消耗・劣化します。
- 酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域等でのご使用後は、真水を使って洗浄してください。お客様の船外機の使用状況により、点検時間が異なる場合がありますのでご了承ください。詳しくはヤマハ取扱店へご相談ください。

“●” 印の項目については、お客様ご自身で点検を行ってください。

“○” 印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

| 項目 | 内容 | 初回 | 次回 | | | ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 10 時間（1ヶ月） | 50 時間（3ヶ月） | 100 時間毎（6ヶ月毎） | 200 時間毎（1 年毎） | |
| アノード（外部取り付け） | 点検／交換 | | ●/○ | ●/○ | | 55 |
| アノード *1 | 点検／交換 | | | ○ | | − |
| 冷却水漏れ | 点検／交換 | ○ | ○ | ○ | | − |
| カウルロックレバー | 点検 | | | | ○ | − |
| 燃料フィルター（ビルトインタンク内蔵タイプ） | 点検／清掃 | | | | ○ | − |
| 燃料ホース | 点検 | ● | ● | ● | | − |
| 燃料ホース | 点検／交換 | ○ | ○ | ○ | | − |
| 燃料／エンジンオイル漏れ | 点検 | ○ | ○ | ○ | | − |
| 燃料タンク（一体型タイプ） | 点検／清掃 | | | | ○ | − |
| ギヤオイル | 交換 | ●/○ | | ●/○ | | 54 |
| ギヤオイルの汚れ、漏れ | 点検 | ●/○ | ●/○ | ●/○ | | 54 |
| グリスポイント | 給脂 | ●/○ | ●/○ | ●/○ | | 48 |
| エンジンのかかり具合／騒音 | 点検 | ●/○ | ●/○ | ●/○ | | 28 |
| アイドル回転数／騒音 | 点検 | ○ | ○ | ○ | | − |
| プロペラ／プロペラナット／割ピン | 点検／交換 | ●/○ | ●/○ | ●/○ | | 53 |
| シフトリンク | 点検／調整／交換 | ○ | ○ | ○ | | − |

| 項目 | 内容 | 初回 | 次回 | | | ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 10 時間（1ヶ月） | 50 時間（3ヶ月） | 100 時間毎（6ヶ月毎） | 200 時間毎（1 年毎） | |
| サーモスタット | 点検／交換 | | | | ○ | − |
| スロットルリンク／スロットルケーブル | 点検／調整／交換 | ○ | ○ | ○ | | − |
| インペラー／ウォーターポンプハウジング | 点検／交換 | | | ○ | | − |
| 冷却水点検孔の水 | 点検 | ●／○ | ●／○ | ●／○ | | 31 |
| 冷却水取入口 | 点検 | ●／○ | ●／○ | ●／○ | | − |
| エンジンオイル | 交換 | ●／○ | | ●／○ | | 50 |
| バルブクリアランス | 点検／調整 | | | | ○ | − |
| ストップスイッチ | 点検／交換 | ○ | ○ | ○ | | − |
| ワイヤーリード接続部／ワイヤーカプラー接合部 | 点検／交換 | ○ | ○ | ○ | | − |
| スパークプラグ | 点検／交換 | | | | ●／○ | 49 |
| スパークプラグキャップ／ハイテンションコード | 点検／交換 | ○ | | ○ | | − |

JMU45880

*1 サーモスタットカバー

JMU2887E

**定期点検表 2**

| 項目 | 内容 | 次回 | | ページ |
|---|---|---|---|---|
| | | 500 時間毎（2 年 6ヶ月毎） | 1000 時間毎（5 年毎） | |
| アノード *2 | 交換 | | ○ | − |
| エキゾーストガイド、エキゾーストマニホールド | 点検／交換 | | ○ | − |

JMU45890

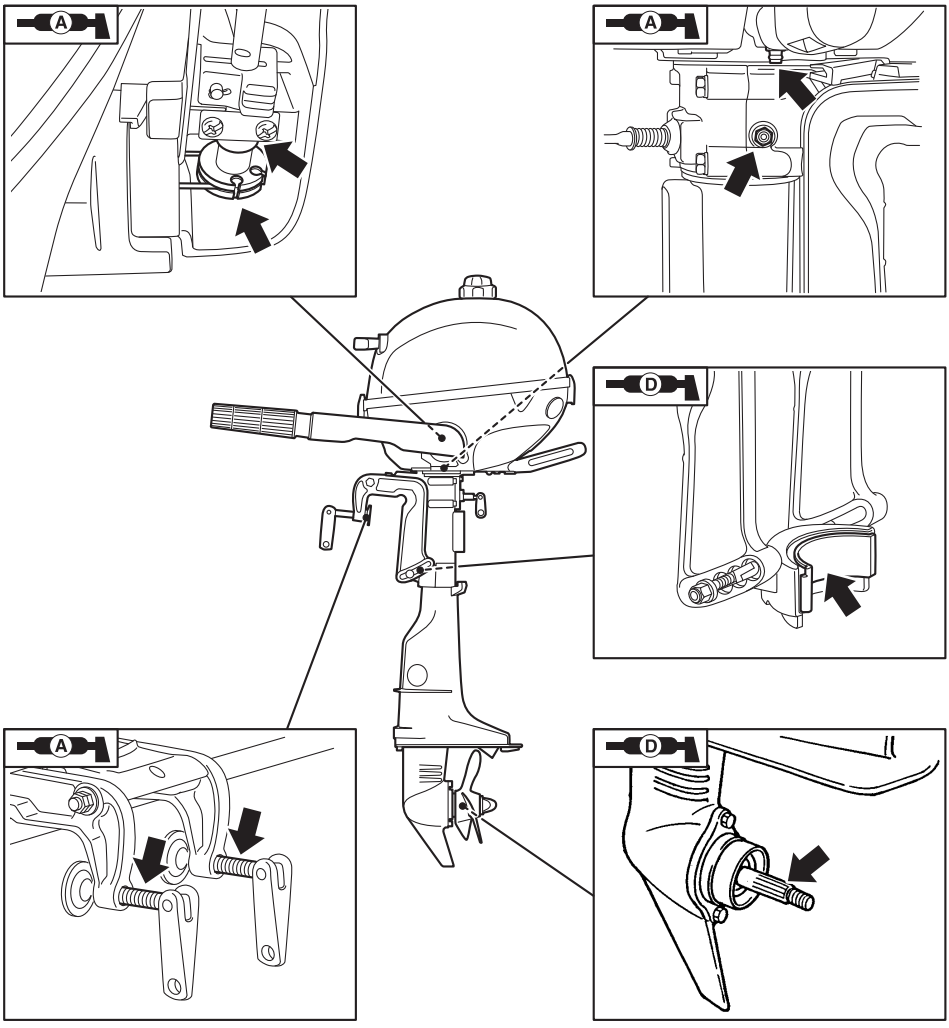
*2 サーモスタットカバー

JMU46621

**グリス給脂箇所**

ヤマルーブグリース A “Ⓐ”（耐水グリス）

ヤマハグリス D “Ⓓ”（耐食グリス）

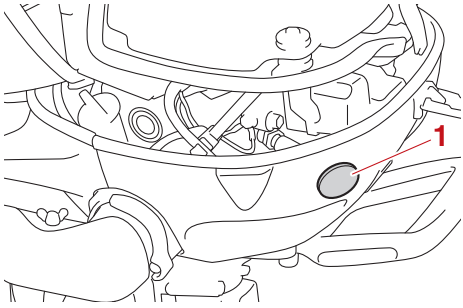



ZMU08459

JMU44892
## スパークプラグの点検
スパークプラグは、エンジンの重要な構成部品です。スパークプラグの状態によって、エンジンの状態を確認することができます。例えば、電極の中心の磁器がとても白い場合、そのシリンダーの吸気に漏れがあるか、燃料と空気の混合比に問題があることを示します。問題を発見した場合でも自己診断せず、ヤマハ取扱店に点検を依頼してください。スパークプラグは熱や電極にカーボン等が付着して徐々に劣化するため、定期的に外して点検を行ってください。

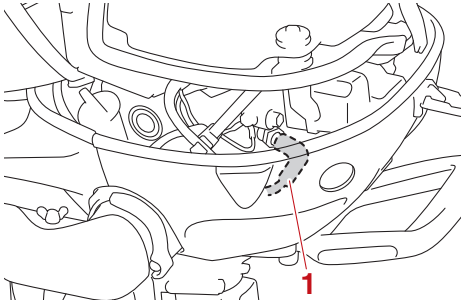
スパークプラグの取り外し

(1) カバーを外します。



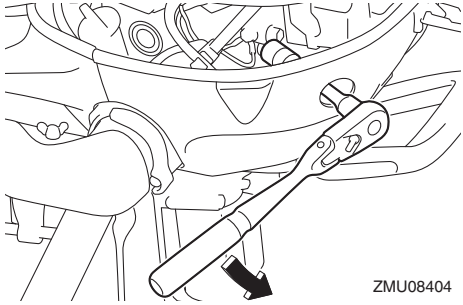

1. カバー

(2) スパークプラグキャップを外します。




1. スパークプラグキャップ

(3) スパークプラグを取り外します。**警告！スパークプラグ脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。漏電して、火災等を誘発する恐れがあります。**[JWM00562]



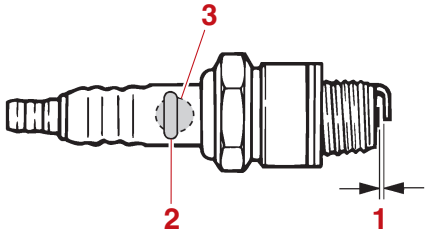
ZMU08404

スパークプラグの点検

(1) スパークプラグを取り外します。電極が消耗し、カーボン等で汚れている場合は交換してください。

**標準スパークプラグ；**
CR6HSB

(2) スパークプラグギャップは、シックネスゲージを用いて点検し、規定値を外れている場合は、スパークプラグを交換します。




ZMU02179

1. スパークプラグギャップ
2. スパークプラグ品番
3. スパークプラグマーク (NGK)

**スパークプラグギャップ；**
0.6–0.7 mm

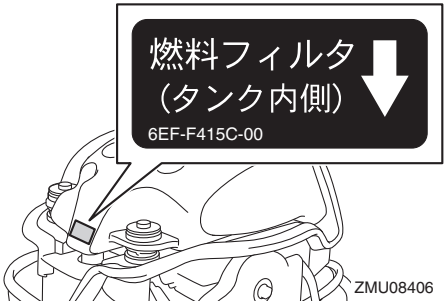
スパークプラグの取り付け方法
(1) スパークプラグのねじの部分、絶縁体、そしてガスケットの部分から汚れをとります。
(2) スパークプラグを取り付け、規定値まで締め付けます。

**スパークプラグ締め付けトルク；**
**13 N·m**

**要　点：**
スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して締め込みます。プラグレンチを使用しての締め込み目安は、再取り付けの場合は 1/12 回転、新品の場合は 1/2 回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定値で締めてください。
(3) スパークプラグキャップを取り付けます。

**要　点：**
スパークプラグキャップが確実に差し込まれている事を確認してください。
(4) カバーを取り付けます。

JMU42465
### 燃料フィルターの点検
燃料フィルターの点検・清掃については、定期点検表に従って、ヤマハ取扱店に作業を依頼してください。




JMU40141
### アイドル回転数の点検
JCM02231
**注 意**

**アイドル回転数の点検をするときは、冷却経路に冷却水を供給してください。**

アイドル回転数の点検には、診断用のタコメーターが必要です。アイドル回転数の点検や調整については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

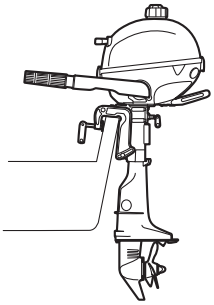
JMU3951E
### エンジンオイルの交換
JWM00761
**⚠警 告**

- **エンジン停止直後には、オイルがたいへん熱くなっていますので、すぐには排出しないでください。**
- **ボートトランサムや専用スタンドに船外機をしっかりと固定してください。**

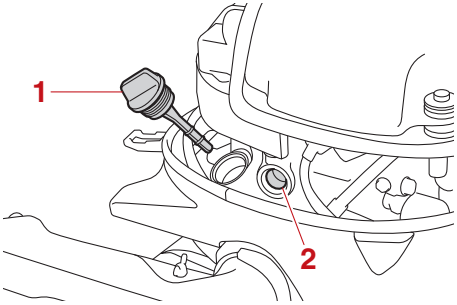
JCM01241
**注 意**

**初回は使用後 10 時間、その後は 100 時間、または6カ月毎にオイル交換を行ってください。**

オイルがこぼれる事による環境汚染を防ぐために、エンジンオイルを交換する際は、オイルチェンジャーを使用することを強くお奨めします。オイルチェンジャーを使用できない場合は、ドレンスクリューを取り外してエンジンオイルを排出します。エンジンオイルの交換が困難な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。
(1) 船外機を垂直状態にします。***注意：*船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルゲージが示すオイルレベルは不正確なものになります。**[JCM01862]


ZMU08448

(2) エンジンを始動させ、エンジンを温めてからさらに 5 ～ 10 分間はアイドル状態を保たせます。
(3) エンジンを停止し、そのまま 5 ～ 10 分間放置します。
(4) トップカウルを取り外します。
(5) オイル給油キャップを外します。

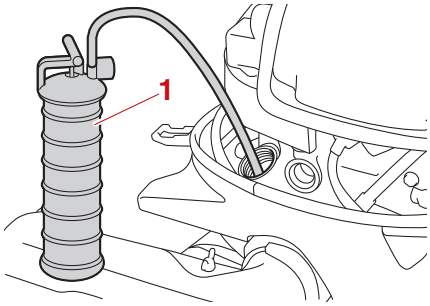



1. 給油キャップ
2. オイル潤滑確認窓

**要　点：**

オイル潤滑確認窓では、エンジンオイル量は確認できません。オイル潤滑確認窓は、エンジン運転中に、エンジンオイルが潤滑していることを確認する時に使用します。

(6) オイルチェンジャーのオイル吸入口をオイル注入口にしっかり差込み、オイルを完全に吸引します。

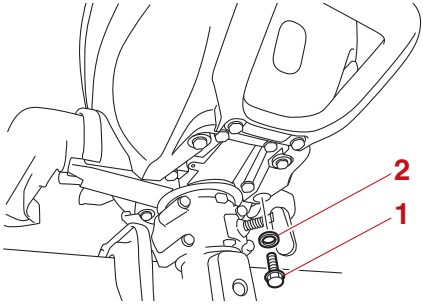



1. オイルチェンジャー

**要　点：**

オイルチェンジャーを使用している場合は、手順 7 と手順 8 を除いて作業して下さい。

(7) エンジンオイルの容量以上の廃油受皿を用意します。ドレンホールの下に容器を置き、ドレンスクリューとガスケットを外して、廃油受皿の中に完全にオイルを排出させます。このとき、こぼれたオイルはすぐに拭き取ってください。




1. ドレンスクリュー
2. ガスケット

**要　点：**

もしオイルが排出されにくい場合は、チルトの角度を変えたり、左右にステアリング操作をしてオイルを排出してください。

(8) ドレンスクリューのガスケットを新しいものと交換し、オイルを軽く塗ってから取り付けをします。

**ドレンスクリュー締め付けトルク：**
18 N·m

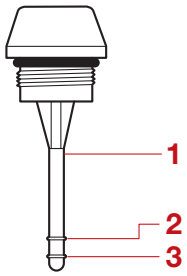
**要　点：**

トルクレンチが準備できない場合は、ドレンスクリューのガスケットが座面に当たるまで指でねじ込み、更に 1/4 ～ 1/2 回転締め込みます。できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値で締めてください。

(9) オイル注入口から規定量のエンジンオイルを入れます。***注意：*オイルは入れすぎないようにしてください。エンジンオイルを入れすぎた時は、規定量になるようにオイルを抜いてください。オイルが多すぎるとオイル漏れや故障の原因となります。**[JCM02183]

**推奨エンジンオイル：**
ヤマルーブ　4ストローク　マリン　エンジンオイル
**エンジンオイル容量：**
0.25 L

(10) オイル給油キャップを完全に締め付けます。
(11) 油面が安定するまで、5 ～ 10 分間待ちます。
(12) オイル給油キャップを外し、オイルレベルゲージに付着しているオイルを拭き取ります。
(13) オイル給油キャップを完全に締め付けます。
(14) 再びオイル給油キャップを外し、オイルの油面がオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの間にあるか確認します。油面が下限マークより低い場合はオイルを補充します。油面が上限マークより高い場合は、上限マークと下限マークの間にくるまでオイルを抜き取ります。




1. オイルレベルゲージ
2. 上限マーク
3. 下限マーク

(15) トップカウルを取り付けます。
(16) エンジンを始動し、オイル漏れがないことを確認します。***注意：*オイルが漏れている場合は、エンジンを停止し原因を調べます。原因が究明できない場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。オイルが漏れている状態での使用はエンジン損傷の原因となります。**[JCM02151]
(17) 廃油の処理は、法律や条例等に従って行ってください。

**要　点：**

- 廃油の処理に関する詳しい情報はヤマハ販売店にご相談ください。
- シビアコンディションで使用した場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めにオイル交換を行ってください。

JMU39773

### ワイヤーリードと各接続部の点検

ワイヤーリードと各接続部について、以下の項目を点検する必要があります。点検については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

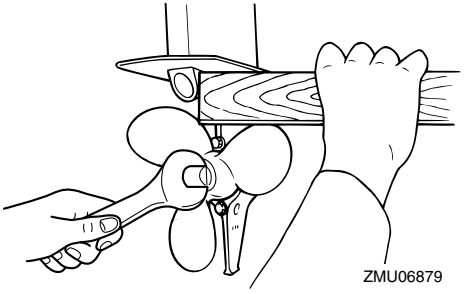
- ワイヤーリードの接続が確実にされていることを点検してください。
- 導通用の各アース線が確実に取り付けられていることを点検してください。

JMU39303
## プロペラの点検
JWM02281

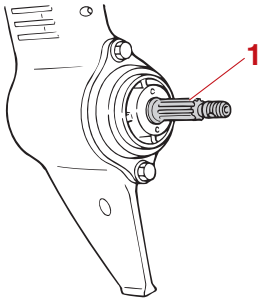
**⚠警 告**

**プロペラの点検及び脱着を行うときは、エンジンを始動させないでください。またエンジンの始動を防止するために、シフトを中立（ニュートラル）にし、緊急エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。エンジンが始動すると、重大な事故につながる恐れがあります。**

プロペラナットを締めたり緩めたりするときは素手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間に木片等をかませてから行ってください。



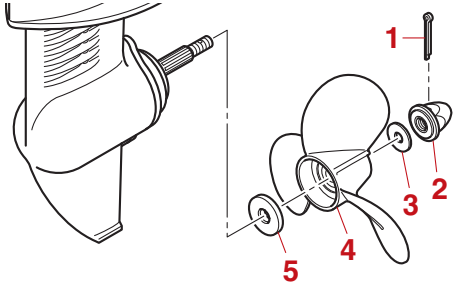

点検箇所
- プロペラブレードの曲がり、表面の浸食、損傷等の点検をします。
- プロペラシャフトの損傷等を点検します。
- スプラインの磨耗及び、損傷等を点検します。
- プロペラシャフトに釣り糸が巻き込まれていないか点検します。




1. プロペラシャフト

- プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。

JMU30663
## プロペラの取り外し
JMU39311
### スプライン仕様
(1) プライヤーを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。
(2) プロペラナット、ワッシャーを取り外します。**警告！ プロペラナットを緩めるときは素手でプロペラを持たないでください。**[JWM01891]




1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. プロペラ
5. スラストワッシャー

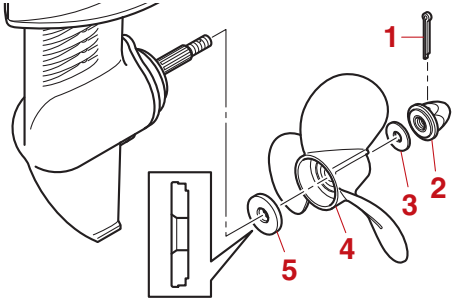
**プロペラナットの 2 面幅：**
21 mm

(3) プロペラ、スラストワッシャーを取り外します。

JMU30673
## プロペラの取り付け
JMU39327
### スプライン仕様
JCM00502
**注 意**

**割ピンは新しいものを使用して端を確実に折り曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。**

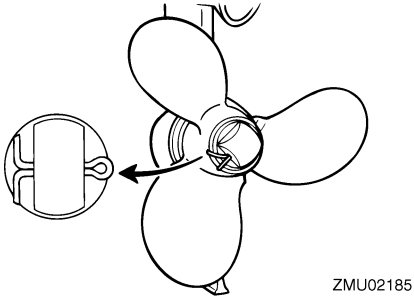
(1) プロペラシャフトにヤマハグリス D（耐食グリス）を塗布します。
(2) スラストワッシャーをプロペラシャフトに入れ、プロペラを取り付けます。***注意：*プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャーを必ず入れてください。プロペラとロワーケースが接触し損傷する恐れがあります。**[JCM01882]
(3) ワッシャーを取り付け、プロペラにガタがなくなるまでプロペラナットを締め付けます。




1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. プロペラ
5. スラストワッシャー

(4) プロペラシャフト穴とプロペラナット穴の位置を合わせ、新しい割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。

***注意：*使用済の割ピンを再利用しないでください。運転中にプロペラが脱落する恐れがあります。**[JCM01892]



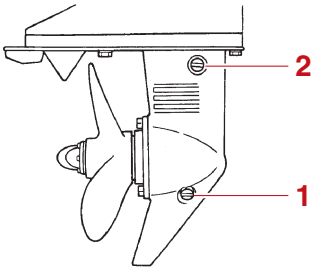

**要 点：**

プロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフト穴とプロペラナット穴の位置が合っていない場合は、さらに締め込むか、少し緩めて穴の位置を合わせます。

JMU47080
## ギヤオイルの交換
JWM02351
**⚠警 告**

**船外機はボートトランサムや専用スタンドに確実に固定してください。船外機が落下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。**

(1) 船外機を垂直状態にします。
(2) 廃油の受け皿をロワーケースの下に敷きます。
(3) ギヤオイルドレンプラグとガスケットを外します。

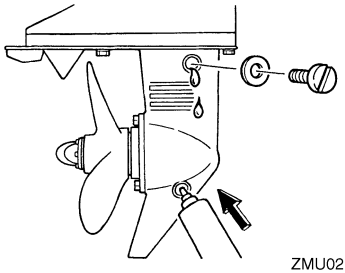



1. ギヤオイルドレンプラグ
2. オイルレベルプラグ

(4) オイルレベルプラグとガスケットを外し、ギヤオイルを残らず排出させます。
***注意：*排出したギヤオイルに大量の金属粒子や水が混入している、または白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。**[JCM00714]

(5) ヤマハ船外機ギヤオイルをオイルドレン穴より注入します。

**推奨ギヤオイル：**
船外機ギヤオイル
**推奨ギヤオイルグレード：**
SAE 90 API GL-4
**ギヤオイル容量：**
0.075 L



ZMU02187

(6) 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、新しいガスケットを取り付けたオイルレベルプラグを締めます。

**要　点：**
取り付けの前に、オイルレベルプラグのねじ部とガスケットにギヤオイルを薄く塗ってください。

**オイルレベルプラグ締め付けトルク；**
7 N·m

(7) 新しいガスケットを取り付けたギヤオイルドレンプラグを締めます。

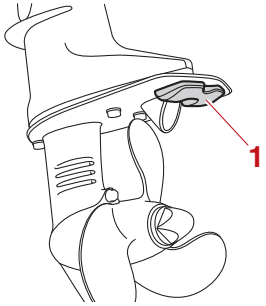
**要　点：**
取り付けの前に、ギヤオイルドレンプラグのねじ部とガスケットにギヤオイルを薄く塗ってください。

**ギヤオイルドレンプラグ締め付けトルク；**
7 N·m

JMU39333
## アノードの点検（外部取り付け）
アノードは、船外機を電食（水中の微弱電気による金属の腐食）から保護するためのものです。外部アノードの状態を点検し、新品の３分の１以上が消耗している場合は交換します。外部アノードの交換は、ヤマハ取扱店で行ってください。

JCM00721
**注　意**

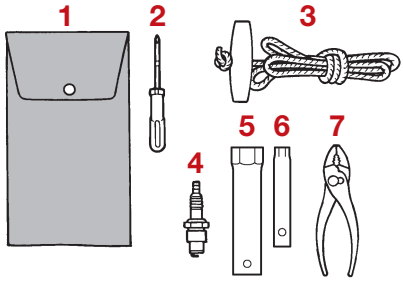
**電食防止効果がなくなりますので、アノードに塗料を塗らないで下さい。**




1. アノード

JMU30112

## 付属工具と部品




1. 工具袋
2. ドライバー (+/-)
3. 応急始動ロープ
4. スパークプラグ
5. スパークプラグレンチ
6. ボックスレンチ (10)
7. プライヤー

JMU46680

## 故障と対策

この章では、燃料、圧縮、点火系統、始動不備や出力損失などの故障に対して、想定される原因と確認項目を記載しています。いくつかの項目は、お持ちの船外機に合わない場合がございます。ご了承ください。
不安な箇所がございましたら、そのままの状態でヤマハ取扱店へ作業を依頼してください。

**エンジンが始動しない。**
Q. 燃料タンクが空になっていませんか？
A. 燃料を入れる。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？
A. 電極の清掃、または推奨スパークプラグに交換。

Q. スパークプラグキャップが外れていませんか？
A. 正しく取り付ける。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エンジンシャットオフコードのロックプレートが外れていませんか？
A. 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。

Q. エンジン内部が損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

**アイドリングが不安定、またはエンストする。**
Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. スパークプラグの交換。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 推奨以外のオイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. キャブレタが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが締まっていませんか？

A. エアベントスクリュを緩める。

Q. チョークノブが引かれていませんか？
A. チョークノブを戻す。

Q. キャブレタが詰まっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スロットルケーブルが作動不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

**エンジンの力がない。**
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラサイズが適切ですか？
A. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。

Q. トリム角度が適切ですか？
A. 再調整。

Q. 船外機取り付け高さが適切ですか？
A. 再調整。

Q. 船底への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？
A. 電極の清掃、または推奨スパークプラグに交換。

Q. 船外機への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. スパークプラグの交換。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 推奨以外の燃料を使用していませんか？
A. 推奨燃料へ交換。

Q. 推奨以外のオイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが締まっていませんか？
A. エアベントスクリュを緩める。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

**振動が大きい。**
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラシャフトが損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 海藻、貝類がプロペラへ付着していませんか？
A. 除去、清掃。

Q. ステアリングの緩み、または損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

JMU29435

## 応急処置

JMU29442

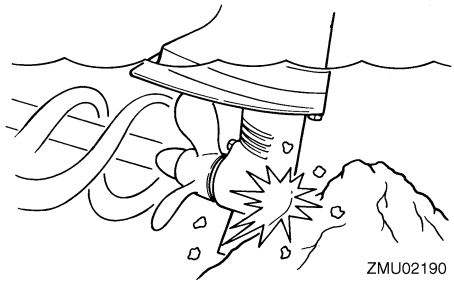
### 衝撃を受けた場合

JWM00871

**⚠警 告**

**船外機は航走中に、水中の浮遊物等との衝突による重大な損傷を受けることがあります。損傷を受けた船外機は安全に航走できません。**

航走中の船外機に水中の物体が当たった場合は、次の手順に従ってください。




(1) エンジンを停止してください。
(2) 各部の作動を確認し、さらに各部品の損傷も点検してください。また、ボートの損傷具合も調べてください。
(3) ゆっくりと細心の注意をはらいながら、最寄りの港へ引き返してください。
(4) 再度ご使用になる前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMU43682

### 始動装置が作動しない場合

始動装置が作動しない場合は、応急始動用ロープでエンジンを始動することができます。

JWM04290

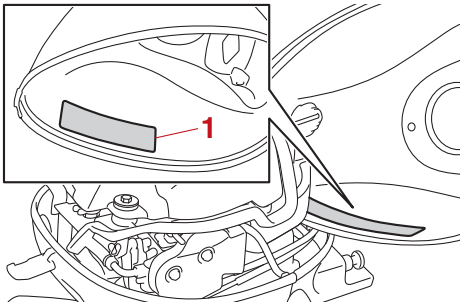
**⚠警 告**

- **非常時に最寄りの港へ引き返すときに限って、この操作を行なってください。**
- **シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてください。ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。**
- **応急始動用ロープを引いてエンジンを始動させるときには、背後に人が居ないことを確認してください。**
- **エンジン始動の際には、衣服等を巻き込まれないようにしてください。**
- **エンジン始動後には、フライホイールや他の回転部分に触れないようにしてください。**
- **エンジン始動後には、手動始動装置やトップカウルを取り付けないでください。**
- **エンジン運転中には、イグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**

JMU42923

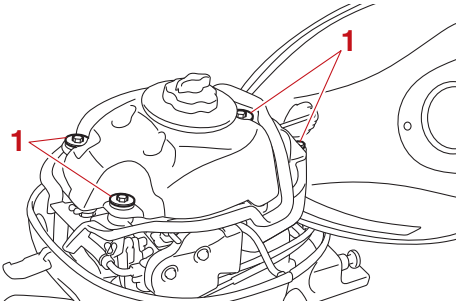
### 応急始動

トップカウルの内側に貼られている応急始動ラベルを確認してから、以下の作業手順に従って作業を行ってください。



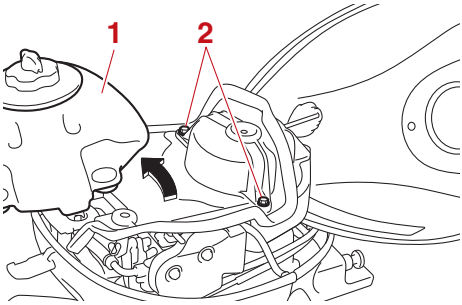

1. 応急始動ラベル

(1) トップカウルを持ち上げます。
(2) ボルトを取り外します。



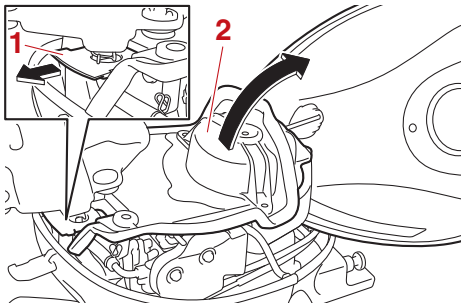

1. ボルト

(3) 燃料タンクを横にずらして、マニュアルスターターケースからボルトを取り外します。



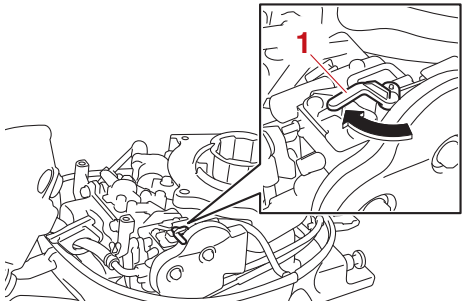

1. 燃料タンク
2. ボルト

(4) マニュアルスターターケースからグロメットを外し、トップカウルごとマニュアルスターターケースを船外機から取り外します。



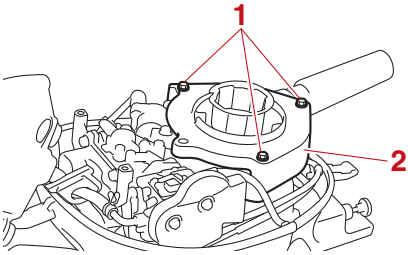

1. グロメット
2. マニュアルスターターケース

(5) レバーを動かしてチョークを全開にします。



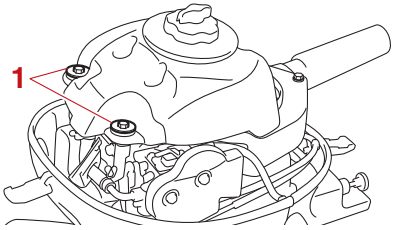

1. レバー

(6) 外したボルトを取り付けてブラケットを固定します。



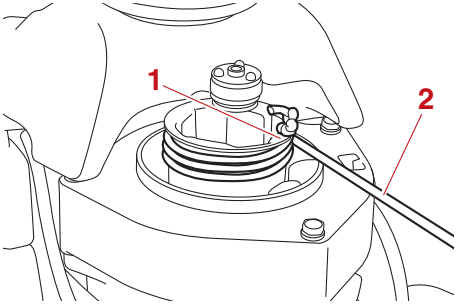

1. ボルト
2. ブラケット

(7) 燃料タンクを元の位置に戻し、外したボルトを取り付けて固定します。



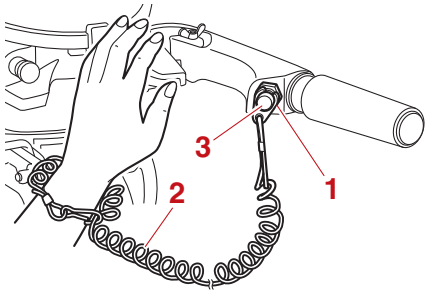

1. ボルト

(8) 応急始動ロープの結び目をフライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に 2 ～ 3 回巻き付けます。



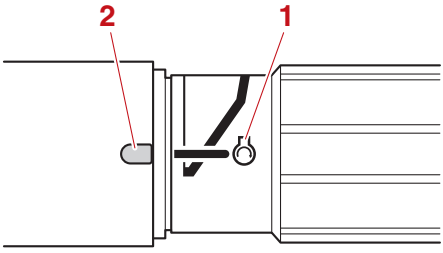

1. 切り欠き
2. 応急始動ロープ

(9) エンジンシャットオフコードを衣服、手もしくは足に確実に取り付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。



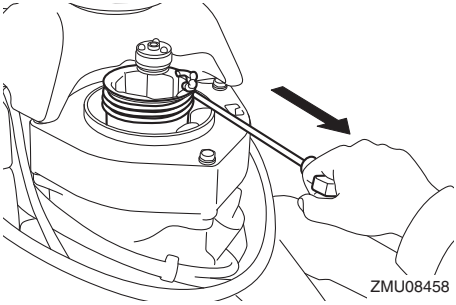

1. ロックプレート
2. エンジンシャットオフコード
3. 緊急エンジン停止スイッチ

(10) スロットルグリップのスタートマーク “⏻” をティラーハンドルの合わせマークに合わせます。




1. スタートマーク “⏻”
2. 合わせマーク

(11) 応急始動ロープを船首側に一気に強く引いて、エンジンを始動させます。




JMU33502

## 船外機を水中に落とした場合

船外機を水没させた場合は、直ちにヤマハ販売店までお持ちください。エンジン内各部に錆や腐食が発生する原因となります。***注意：*** **ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。**[JCM00402]

# 附録

JMU49120

## メンテナンスに関する各種サポート情報

**販売店検索や部品、メンテナンスに関する各種サポート情報は下記アドレスまたはQRコードにアクセスください。**

ヤマハ　マリン　で検索。

### メンテナンスガイド

- メンテナンスのポイント
- 点検方法
- サポートプログラム

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/maintenance/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=maintenance

### ボートのよくある質問はこちら

- Q&A

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/maintenance/qa/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=qa

### お問合せ・製品サポート

- よくある質問と回答
- 販売店検索
- 部品情報検索

https://www.yamaha-motor.co.jp/support/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=inquiry#support-marine

### ボートを永く楽しんでいただくために

- ヤマハマリンライフ

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=marinelife

JMU30136

# お客様窓口のご案内

**お買い上げいただきました製品に関するご相談は、「ご購入店」またはお近くの「販売店」までお願いいたします。**

**お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談お申しつけください。**

**①商品名**
**②型式および製造番号**
**③ご購入年月日**
**④ご購入先**

**お買い上げいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。**

**ご購入店**

| エリア | 営業所 | TEL |
|---|---|---|
| 北海道 | ヤマハ発動機(株)　東日本営業所　北海道サービス課 | 0134-31-1135 |
| 東　北<br>関　東 | ヤマハ発動機(株)　東日本営業所　東日本サービス課 | 045-775-2450 |
| 中　部<br>関　西 | ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　西日本サービス課 | 0798-37-2004 |
| 中四国 | ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　中四国サービス課 | 082-532-8522 |
| 九　州 | ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　九州サービス課 | 092-885-6523 |

営業時間　月曜～金曜(祝日、弊社所定の休日等を除く)　9:00～12:00　13:00～17:00

**ヤマハ発動機株式会社**　カスタマー コミュニケーション センター
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500　**0120-090-819**
受付時間　月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日等を除く）　9:00～12:00　13:00～17:00

# 索引


**ア**

アイドル回転数の点検 ..... 50
アノードの点検 ..... 55
安全にお使いいただくために ..... 1

**イ**

一酸化炭素 ..... 2
飲酒と薬の服用について ..... 2

**ウ**

運搬と保管 ..... 39

**エ**

エンジンオイル ..... 25
エンジンオイルに関する項目 ..... 11
エンジンオイルの交換 ..... 50
エンジンオイルの補給 ..... 23
エンジン始動 ..... 29
エンジン始動後の点検 ..... 31
エンジンシャットオフコード（ランヤード） ..... 1, 25
エンジン操作 ..... 28
エンジン停止 ..... 33
エンジン停止スイッチ ..... 31
エンジン停止ボタン ..... 17
塩水域や泥水域での航行 ..... 38

**オ**

応急始動 ..... 59
応急処置 ..... 59

**カ**

改造 ..... 2
回転部品 ..... 1
カウルロックレバー ..... 19
各部の名称 ..... 13
過積載 ..... 3
ガソリン ..... 2, 12
ガソリンの蒸発と流出の注意 ..... 2
感電の危険性 ..... 1

**キ**

ギヤオイル ..... 11
ギヤオイルの交換 ..... 54
ギヤシフトレバー ..... 15
キャリングハンドル ..... 19
緊急エンジン停止スイッチ ..... 17

**ク**

グリス給脂箇所 ..... 48

**ケ**

警告ラベル ..... 6

**コ**

高温部品 ..... 1
故障と対策 ..... 57
コントロールシステムの点検 ..... 25

**シ**

始動装置が作動しない場合 ..... 59
始動前点検 ..... 24
シビアコンディション ..... 44
シフト操作の点検（暖機運転後） ..... 31
潤滑 ..... 43
衝撃を受けた場合 ..... 59
仕様諸元 ..... 9
乗船者 ..... 2
乗船者の訓練 ..... 4
衝突を回避する ..... 3

**ス**

水槽を使った洗浄 ..... 42
水中の障害物および浮遊物への注意 ..... 3
ステアリングフリクション アジャスター ..... 18
スパークプラグの点検 ..... 49
スロットルインジケーター ..... 16
スロットルコントロールグリップ ..... 16
スロットルフリクション アジャスター ..... 16

**セ**

製造番号の記録 ..... 5
船外機外装の点検 ..... 44
船外機製造番号 ..... 5
船外機トリム角度 ..... 34
船外機の洗浄 ..... 44

船外機の取り付け ..... 10, 22
船外機の取り付け高さ ..... 21
船外機の取り外しと運搬 ..... 39
船外機の廃棄に関する項目 ..... 12
船外機本体の点検 ..... 26
船外機を水中に落とした場合 ..... 62
前進／後進 ..... 31
船底の清掃 ..... 12

**タ**

暖機運転 ..... 31
暖機運転後の点検 ..... 31

**チ**

チョークノブ ..... 17
長期保管 ..... 42
チルトアップ／ダウン ..... 36
チルトサポートレバー ..... 19
チルトピン ..... 18
チルトロック機構 ..... 19

**テ**

定期点検 ..... 44
定期点検表 1 ..... 46
定期点検表 2 ..... 47
停船 ..... 33
ティラーハンドル ..... 15
天候 ..... 3

**ト**

トップカウルの取り付け ..... 26
トップカウルの取り外し ..... 24

**ナ**

慣らし運転 ..... 23

**ネ**

燃料供給 ..... 28
燃料系統 ..... 25
燃料コック ..... 15
燃料残量 ..... 24
燃料タンク（一体型燃料タンク） ..... 14
燃料タンクへの給油 ..... 27
燃料に関する項目 ..... 12
燃料フィルターの点検 ..... 50
燃料漏れの点検 ..... 25

**ハ**

初めてお使いになる前に ..... 23

**ヒ**

非常時の装備 ..... 12

**フ**

付属工具と部品 ..... 56
プロペラ ..... 1, 10
プロペラの点検 ..... 53
プロペラの取り付け ..... 54
プロペラの取り外し ..... 53

**ホ**

ボート運転安全性 ..... 2
ボート航行の安全に関する告知 ..... 4
ボートトランサムへの取り付け ..... 20
ボートの定格馬力 ..... 10
ボートへの設置条件 ..... 10
法令および規制 ..... 4

**マ**

マニュアルスターターハンドル ..... 18
マニュアル類と製品安全ラベルを
お読みください ..... 6

**ユ**

遊泳者への注意 ..... 2

**ラ**

ライフジャケット ..... 2

**レ**

冷却水 ..... 31

**ワ**

ワイヤーリードと各接続部の点検 ..... 52

JMU30143

**不許複製**

名称： F2B
船外機取扱説明書
部品番号： 6EF-F8199-06
発行： ヤマハ発動機株式会社
2022 年 1 月



Printed in Thailand
February 2022

**Outboard**

# 保証登録書

①販売店控（FAX用）

| | |
|---|---|
| フリガナ | |
| ご　氏　名 | |
| フリガナ | |
| ご　住　所 | 〒□□□－□□□□ |
| Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　） | |
| 船　　名 | 定係港 |

| | |
|---|---|
| 販　売　店　名 | （販売店　コード） |
| ＴＥＬ番号：　　（　　） | |
| ＦＡＸ番号：　　（　　） | |
| 備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい） | |

**【お客様の個人情報のお取扱いについて】**

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
1）商品の取扱い説明を受けられましたか？　〈 はい、いいえ 〉
2）保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？　〈 はい、いいえ 〉
3）初回点検、定期点検整備についての説明は受けましたか？　〈 はい、いいえ 〉
4）ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？　〈 はい、いいえ 〉

＊安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させて頂きます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名
ご署名日　　／　　／

＊尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

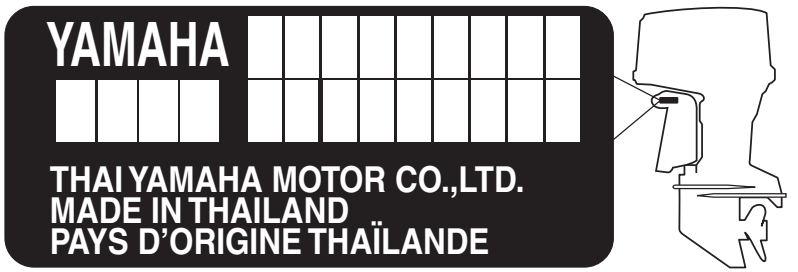
管理責任部署　ヤマハ発動機株式会社
マリン事業本部　サービス部　　電話　0538-37-1528

## ■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

| | |
|---|---|
| 商　品　コ　ー　ド | |

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。




| | |
|---|---|
| 保証開始日（納入日）：２０　　年　　月　　日 ～ | 一般保証満了日：２０　　年　　月　　日 |
| | 特別保証満了日：２０　　年　　月　　日 |
| 取付艇種 | 用　途（マル印）　レジャー　・　業務（営業） |
| ヤマハ拠点名 | ヤマハ拠点コード |

## ■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

| 項　目 | チェック | 項　目 | チェック |
|---|---|---|---|
| 備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他） | | シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ） | |
| 外観の状態 | | スロットル（グリップ、レバー）の作動 | |
| ロワーケースギヤオイルの量 | | プロペラ選定 | |
| チルトの作動 | | エンジンオイル量 | |
| 各スイッチ類の作動 | | お客様への取扱い説明 | |
| パイロットホールからの冷却水の出具合 | | ならし運転についての説明 | |
| アイドリング回転数のチェック | | 取扱説明書、整備手帳の引渡し | |
| タコメータの作動 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| プロペラサイズ | | 最高回転数 | rpm |

**Outboard**

# 保証登録書

②ヤマハ販売会社控

| | |
|---|---|
| フリガナ | |
| ご 氏 名 | |
| フリガナ | |
| ご 住 所 | 〒□□□−□□□□ |
| T E L ： | （ ） |
| 船 名 | 定係港 |

| | |
|---|---|
| 販 売 店 名 | （販売店 コード） |
| | TEL番号： （ ） |
| | FAX番号： （ ） |
| 備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい） | |

**【お客様の個人情報のお取扱いについて】**

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
1）商品の取扱い説明を受けられましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
2）保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
3）初回点検、定期点検整備についての説明は受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
4）ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？ 〈 はい、いいえ 〉

＊安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させて頂きます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名
ご署名日 ／ ／

＊尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

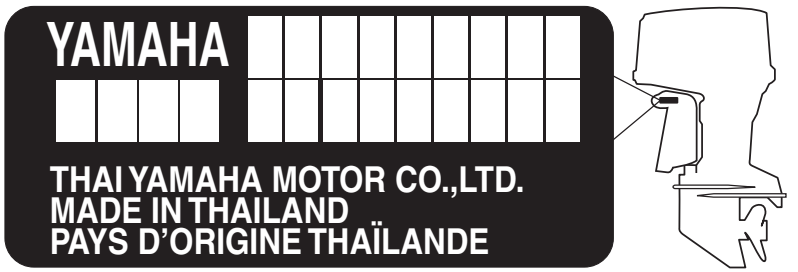
管理責任部署 ヤマハ発動機株式会社
マリン事業本部 サービス部 電話 0538-37-1528

## ■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

| | |
|---|---|
| 商 品 コ ー ド | |

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。




| | |
|---|---|
| 保証開始日（納入日）：２０ 年 月 日 ～ | 一般保証満了日：２０ 年 月 日 |
| | 特別保証満了日：２０ 年 月 日 |
| 取付艇種 | 用 途（マル印） レジャー ・ 業務（営業） |
| ヤマハ拠点名 | ヤマハ拠点コード |

## ■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

| 項 目 | チェック | 項 目 | チェック |
|---|---|---|---|
| 備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他） | | シフトの入り具合（F－N－R） | |
| 外観の状態 | | スロットル（グリップ、レバー）の作動 | |
| ロワーケースギヤオイルの量 | | プロペラ選定 | |
| チルトの作動 | | エンジンオイル量 | |
| 各スイッチ類の作動 | | お客様への取扱い説明 | |
| パイロットホールからの冷却水の出具合 | | ならし運転についての説明 | |
| アイドリング回転数のチェック | | 取扱説明書、整備手帳の引渡し | |
| タコメータの作動 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| プロペラサイズ | | 最高回転数 | rpm |

**Outboard**

# 保証登録書

③お客様控（保証書）

| | |
|---|---|
| フリガナ | |
| ご　氏　名 | |
| フリガナ | |
| ご　住　所 | 〒□□□－□□□□ |
| Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　） | |
| 船　　名 | 定係港 |

| | |
|---|---|
| 販　売　店　名 | （販売店　コード） |
| ＴＥＬ番号：　　（　　） | |
| ＦＡＸ番号：　　（　　） | |
| 備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい） | |

**【お客様の個人情報のお取扱いについて】**

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
1）商品の取扱い説明を受けられましたか？　〈 はい、いいえ 〉
2）保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？　〈 はい、いいえ 〉
3）初回点検、定期点検整備についての説明は受けましたか？　〈 はい、いいえ 〉
4）ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？　〈 はい、いいえ 〉

＊安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させて頂きます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名
ご署名日　　／　　／

＊尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

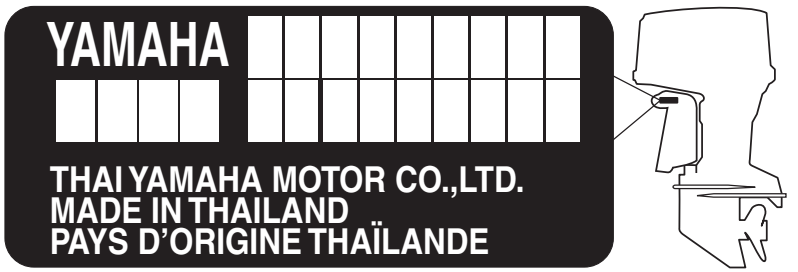
管理責任部署　ヤマハ発動機株式会社
マリン事業本部　サービス部　　電話　0538-37-1528

## ■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

| | |
|---|---|
| 商　品　コ　ー　ド | |

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。




| | |
|---|---|
| 保証開始日（納入日）：２０　　年　　月　　日 ～ | 一般保証満了日：２０　　年　　月　　日 |
| | 特別保証満了日：２０　　年　　月　　日 |
| 取付艇種 | 用　途（マル印）　レジャー　・　業務（営業） |
| ヤマハ拠点名 | ヤマハ拠点コード |

## ■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

| 項　目 | チェック | 項　目 | チェック |
|---|---|---|---|
| 備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他） | | シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ） | |
| 外観の状態 | | スロットル（グリップ、レバー）の作動 | |
| ロワーケースギヤオイルの量 | | プロペラ選定 | |
| チルトの作動 | | エンジンオイル量 | |
| 各スイッチ類の作動 | | お客様への取扱い説明 | |
| パイロットホールからの冷却水の出具合 | | ならし運転についての説明 | |
| アイドリング回転数のチェック | | 取扱説明書、整備手帳の引渡し | |
| タコメータの作動 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| プロペラサイズ | | 最高回転数 | rpm |

# 保 証 書

お買いあげいただきました裏面記載の製品に万一不具合がおきました場合にはこの保証書に基づき次の通り保証致します。
なお、この保証は日本国内で使用される当該製品に限り適用致します。

**1．保証の発効**
お買いあげいただきました当該製品の保証は、この保証書に弊社の販売店、取扱店が必要事項を記入の上、捺印することにより有効となります。

**2．保証期間**
保証期間は、納入日（お客様にお渡しした日）より一般保証１年間又は使用時間200時間、特別部品保証３年間又は使用時間300時間のいずれか先に到達したときまでと致します。特別保証部品はフューエルタンク等の燃料系部品、ステアリングブラケット等の操舵系部品、クランクシャフト等のエンジン部品、ドライブシャフト等の動力伝達系部品、ニュートラルスイッチ等の機能部品の破損に対して適用致します。尚、特別保証部品の詳細につきましては弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店へお問い合わせ下さい。

**3．保証内容**
（要件）
次の３つの要件を充すものに限ります。
⑴保証期間内に、当該製品を構成する弊社純正部品及び指定部品に、材料又は製造上の原因により発生した故障又は破損。
⑵保証期間内に弊社の販売店、取扱店に届け出の上保証修理が認められたもの。
⑶購入後１か月目の無償点検が指定されている製品については、その点検済を証する書面を提示すること。
（内容）
⑴この保証書に示す条件に従って、弊社の判断により無償にて当該部品の交換又は補修を行います。
⑵保証修理により取り外した不良部品は、弊社の所有となります。

**4．保証修理の受け方**
保証修理の適用を認められたときは、次の手順に従ってください。
⑴お買いあげの販売店、取扱店又は弊社指定販売店に於いて修理を受けてください。
⑵その際、登録済の保証書及び３．⑶の書面の提示及び当該故障又は破損物品の提出がないときは、保証修理の対象になりませんのでご注意ください。

**5．保証除外項目**
保証期間内でも、次の項目の一つに該当するときは保証修理の対象となりません。
（指定外品、天災に起因するもの）
⑴弊社純正及び指定以外の部品又は材料を使用した為に発生したとみなされる故障又は破損。
⑵天災、地変、公害、航行中又は海送、陸送中の事故、その他弊社の責に帰すことの出来ない事由により発生した故障又は破損。
⑶一般的に機能上影響のない腐食、錆、オイルのにじみ及び感覚的な現象。（音、振動等）
⑷経時変化により発生した塗装、メッキ面等の自然退色、ひび割れ及びこれらに類するもの。
（取扱方法等に起因するもの）
⑴取扱方法、保守方法もしくは保管方法の誤り又は保管場所の不適切によって発生したとみなされる故障又は破損。
⑵日常点検、点検整備、定期交換部品の交換等が実施されていないために発生したとみなされる故障又は破損。
⑶弊社が定める使用制限規定（定員、積載量、馬力等）を超えて使用したために発生したとみなされる故障又は破損。
⑷レースに使用したもの。
⑸弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われたエンジン又は艤装品の取付けによって発生したとみなされる故障又は破損。
⑹弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われた修理、整備、改造によって発生したとみなされる故障又は破損。
（※）通常の使用状態において消耗するもの（パッキン、オイルシール、プロペラ、プラグ等）は保証修理の対象になりません。

**6．保守、点検、整備**
当該製品を安全に御使用いただくために、弊社で定める保守、点検、整備は取扱説明書及び整備手帳に定めるところに従いお客様の責任において実施していただきます。又、これらに要する費用はお客様の負担となります。

**7．保証の継承**
保証期間内にある中古製品を購入されたお客様は、保証書に記載されている弊社販売店、取扱店に保証書を提示の上、点検整備（有料）を受けることにより、残余の保証期間を継承することができます。

ヤマハ発動機株式会社
静岡県磐田市新貝2500

YAMAHA